



### 遠藤克彦氏「大阪新美術館」コンペ勝利

「建築100人展 2016 大学展・上野浅草展」開催

建築学生のための如学会「進路支援プログラム」

「進路ガイダンス 2016」開催

「縄文展」(ブルガリア国立考古博物館)

「世界遺産・富岡製糸場」バスツアー

第2回夢キャンパスセミナー「震災後のサポートとまちづくり」

「大須賀常良先生没後20年に想う」

「いつもの仲間の同窓会」

武蔵工業大学建築学科合同同窓会 2016

「女流ファイル」part・15

卒業設計・卒業論文／蔵田賞・如学会賞

修士設計・修士論文

今年度も、如学会は校友会レベルで一層活動と交流が広がった年でもありました。校友会の本年のも学生支援事業の最重要課題として学生が就職・進学をOB、OGに相談できる機会である「進路相談会」を全学レベルで始動させる方向で、手始めに機械、電気系で開催されました。如学会では「進路ガイダンス」として既に4年実施し、その経験を踏まえて如学会も協力いたしました。

如学会における昨年の主な実施行事と今年の主な実施予定行事は以下の通りとなっております。如学会の皆様の積極的なご参加を歓迎いたします。

- 「定期総会・講演会・懇親会」2017年6月3日開催予定
- 「坂倉準三バリエーション展参加とコルビュジェ他最新建築視察ツアー」2017年4月25日～29日(3泊5日)開催予定
- 3年前の台湾、2年前の金沢、昨年の函館ツアーに続き、今年にはパリに行きます。昨年、一昨年はいずれも新幹線開通初日に如学会主催、校友会共催で実施しました。
- 「進路支援プログラム/進路ガイダンス」2017年11月29日(水)開催予定 それに先立ち8月末には「産学連携」をテーマとした「進路ガイダンス準備会」も開催予定です。
- 「建築100人展 2017・大学展/巡回展」(大学展:2017年11月4日～5日、巡回展:未定)開催予定
- 今年度は、大学展(2016年10月29日～30日)を開催後、巡回展として「浅草文化観光センター」と「隅田公園リバーサイドギャラリー」の2会場にて巡回展(2016年12月1日[木]～12日[月])を開催しました。観光地らしく外国の方々や一般の方々、学内外の多くの学生・同窓生が鑑賞に訪れ、懇親を深めることができました。
- 12年目の「夏期特別講義」を2017年8月に開催予定。本年からは建築学科のOB・OG15名前後に「特別講師」を委嘱、1コマ70分の授業を受け持ち、毎日最後の4時限目に討論会の時間を設け、大学では学べない社会の実務を学生が学べる、参加する授業としての機会をつくります。
- 「資格支援プログラム」(一級建築士、一般施工管理技士、

■建築学科人事  
2017年4月からの建築学科人事を紹介します。

- 主任教授再任 勝又英明 教授  
(2017年から2年の任期)
  - 専攻主任教授再任 大橋好光 教授  
(2017年から2年の任期)
  - 採用  
設計系: 福島加津也先生 講師→教授  
(福島先生は講師の時点では任期付きでした。2017年4月より任期なしの教授としての採用となります。)
  - 構造系: 焦瑜先生 准教授  
(濱本卓司先生の後任です。2017年3月一杯まで東京理科大学助教です。)
  - 就職担当: 西村功教授(再任)
  - 留学: 准教授佐藤幸恵先生(2017年3月までの1年間University of California, Berkeleyに留学です。4月には都市大に復帰します。)
- 建築学科教室は、採用・復帰により、1年ぶりに建築学科の専任教職員が揃います。  
ご紹介します。(敬称略)
- 計画・設計系: 勝又、天野、堀場、手塚、福島  
環境・設備系: 近藤、岩下、小林  
構造系: 西村、大村、焦  
材工系: 大橋、小見、佐藤  
教育講師: 及川、山田  
技術員: 三芳、鈴木  
学科事務: 宇野

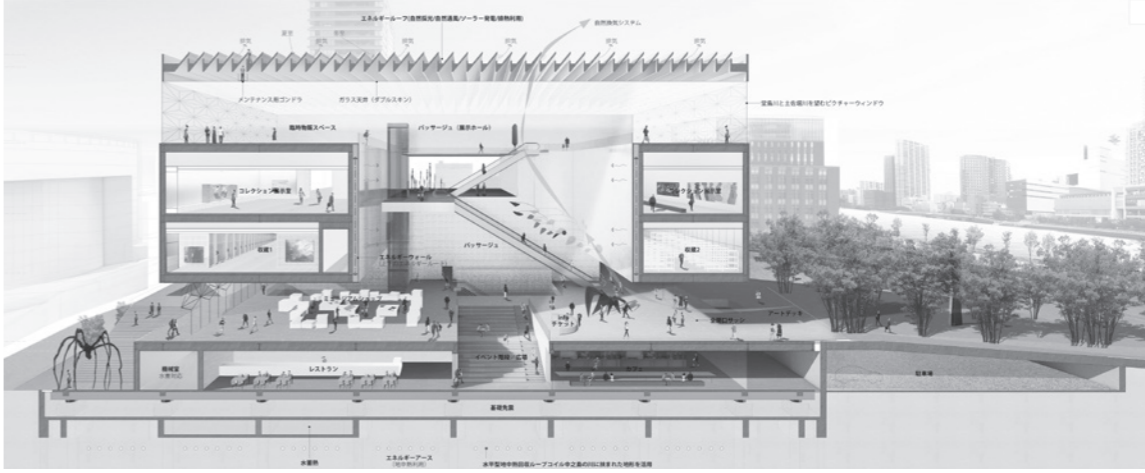
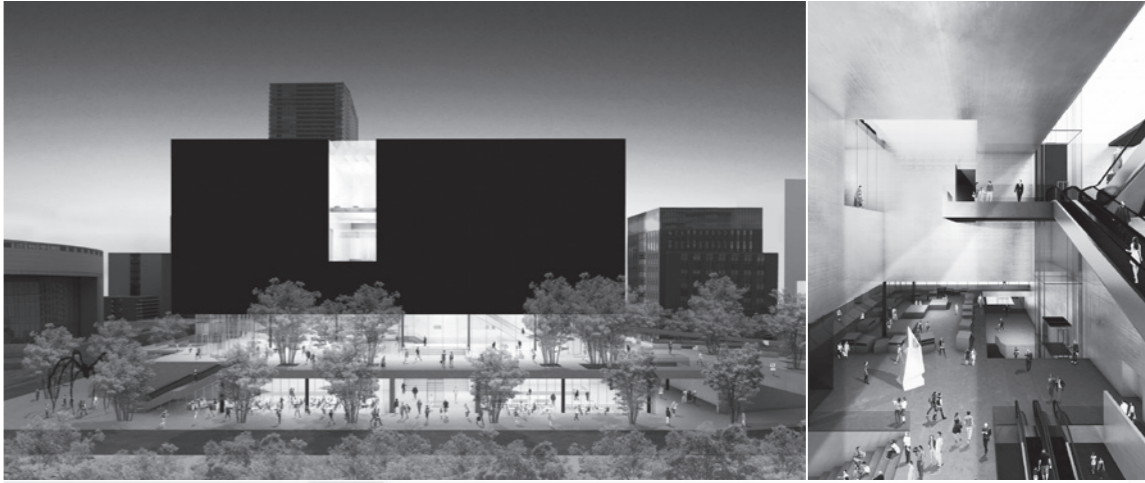


# 遠藤克彦氏(H04卒)「大阪新美術館」コンペ勝利!! 強豪抑え最優秀案として選出される



遠藤氏には昨年夏の特別講義に登壇して頂いている。(前号P19に掲載)  
果敢にコンペやプロポーザルに挑戦し続け、今回は著名な建築家、設計事務所を抑えての快挙である。公募型設計コンペは2段階で行われた。一次審査で68の参加者から5者選出され、二次審査で最優秀を獲得した。  
目を引くのは黒い直方体が浮いていてオープンなアプローチだ。人々は建物中央の光注ぐ吹抜けへと誘導され、4、5階の展示室に導かれる。内部に麻の葉模様のアルキャストのスクリーンが設置されるのを見るとGRC製で黒い外壁は単純な箱ではない事が予想され期待を抱かせる。2018年度中の着工、開館は2021年度の予定。開館が待ち遠しい。コンペの講評、設計提案書については、大阪市のホームページに掲載されている。  
<http://www.city.osaka.lg.jp/toshiseibi/page/0000364592.html#g>

- 1992年 武蔵工業大学 工学部建築学科卒業
- 1995年 東京大学大学院 工学系研究科 建築学専攻 修士課程修了 (東京大学 生産技術研究所 原広司研究室)
- 同大学院博士課程進学
- 1997年 遠藤建築研究所設立
- 1998年 同大学院博士課程退学
- 2007年 株式会社 遠藤克彦建築研究所に組織変更
- 現在 東京工科大学 工学部 建築学科 非常勤講師  
日本大学 理工学部 建築学科 非常勤講師



## 山岡嘉彌

(S46卒)

如学会会長

### 如学会の活動報告



宅地建物取引主任資格など) 継続中  
数々の資格取得を支援するための、卒業生による指導と、資格取得専門教育機関との授業料の減免措置を継続しております。

■「如学会 NEWS・2017 春号/2017 秋号」の発行  
カラーページを更に増ページしたり、より読み易い誌面を構成するように検討していきます。

■「産学連携プログラム」  
次年度から具体的に実施するために、事前の調査、検討を始めており、大学、学科教室と同窓生の所属する企業、官公庁との連携による新しい試みを徐々に進めて行く予定です。

■他のイベントとしては、毎年恒例のOB・OGの設計による作品を見学する「作品見学会」、建設会社の技術研究所などの研究機関訪問の「技術研修会」などを実施していく予定です。

以上のような事業を推進するにあたり、是非皆様のご協力をお願い申し上げます。

■正会員(会費を納められた方)の拡大にご協力下さい。  
建築学科の学生は、大学を卒業した時点で自動的に如学会会員となるわけですが、年会費を納めると「如学会 NEWS」、「如学会メールマガジン」などの情報が届き、様々な如学会(校友会も含む)関連事業に参加が可能となります。級友、先輩、後輩など、お知り合いの方々にも周知を促し、正会員としてより一層の飛躍のチャンスを生かしていただくことを願っております。

■常任理事、委員の募集  
如学会はより一層の発展のために、一緒に活動をしてくれる同志を募っております。より多くの仲間による叡知の結果がより良いアイデアを生み、活動が展開していきます。卒年、出身、専門分野、男女など一切の制限はありません。ご連絡をお待ちしております。  
今後とも如学会会員各位の益々のご協力、ご支援をよろしくお願い致します。  
ご連絡・問合せ先: [jogakkai.info@jogakkai.jp](mailto:jogakkai.info@jogakkai.jp)

## 勝又英明

(S55卒)

東京都市大学  
建築学科主任教授



### 建築学科の近況

■JABEE対応開始  
3年後のJABEE受審を目指して、2017年度入学の1年生から準備を開始します。日本技術者教育認定機構(JABEE)とは、当機構のWebによれば、「技術者教育の振興、国際的に通用する技術者の育成を目的として、大学等の工農理系学科で行われている技術者育成に関わる教育の認定を行っています。工業教育の内容と水準が国際的に通用する技術者の教育として適切かどうかの視点から行う教育プログラムの認定です。(一部略) JABEEに準備等に際し、同窓の皆様、在学生の皆さんにはご協力を頂くこともあるかと思えます。よろしく申し上げます。なお、建築学科の教育プログラム、学習・教育目標につきましては、建築学科のWebをご覧ください、ご意見を頂戴できればと思います。

■大学院改組  
2018年度より大学院工学研究科が理工学研究科となる予定です。これに伴い、「旧専攻」が2から3専攻ずつ合併し、「旧専攻」は「領域」となります。建築学専攻と都市工学専攻が合併し、「建築・都市専攻」となり、旧建築学専攻は「建築学領域」、都市工学専攻は「都市工学領域」となります。建築と都市工学が同一専攻となることにより、研究や教育面での相乗効果が期待されていますし、建築学科としても、今回の改組がプラスのものとなるように努力したいと思います。

この度「2016年度如学会活動の主テーマ」として別紙のとおり4年目となる「進路支援プログラム/OB・OGによる進路ガイダンス」を実施致しました。この企画は本学建築学科の卒業を控えた学生に対し、

- 「一人では不安な就職問題や進学問題について大学・OB・OGが親身になって相談に乗ってくれる場の提供」
- 「OB・OGを通じて建築の実業社会を知る絶好の機会」
- 「本音で語り合えるコミュニケーションの場の提供」

を目指したものです。

如学会として当企画に込めました意義は、「学生個々人と大学・OB・OGとの繋がりを大切にしてきた"本学の精神"を就職・進学という大学生活～社会生活を横断的につなぐテーマに生かし、具体的に表現する場を提供する」ことにあります。

当企画は3部構成で実施致しました。「第1部：業種別仕事紹介」では"業種別の一つの企業を選び、その企業の本校OB・OGの方に各業種の概要をパワーポイントを用いて約7分でご紹介いただく場"とし、14の業種別企業紹介を行って頂きました。

「第2部：企業別仕事紹介」では"建築関連の幅広い業種75社の企業の方々"に参加いただきました。このコーナーは「本校OB・OGの方と学生とのコミュニケーション」を通じて「建築関連業界の生の情報を伝える場として、学生の不安を少しでも払拭する交流の場」創りを目指したものです。この企業別仕事紹介に期待する役割とは「先輩に聞こう！先輩と語ろう！」というサブタイトルにありますように、あくまでも学生の質問に答える形で「就職・実社会での活動等に関する

企業とそこに於ける業務についてコミュニケーションすること」にありました。「リクルート活動」とは一線を画し、OB・OGの方々にはあくまで個人として参加頂きました。参加頂きました企業のOB・OGの方々には学生たちの不安・関心・期待等に熱心に答えて頂き、とても盛況な場とすることができました。

「第3部：懇親会」では企業OB・OGの方々と学生とが、親しく歓談し、学生の関心・疑問・不安等を直接先輩にぶつけることができ、学生にとって他に得がたい「交流のチャンス」を創り出すことができました。

昨年に引き続き開催した今回の「進路支援プログラム」を通じて多くの企業から高い評価を頂き、今回未参加であった企業のOB・OGの方々からも次回への参加のご要望の声も寄せられています。また学生の側からも、この「プログラム」で得た情報・人脈を会社訪問等に生かし、就活に取り組む良いきっかけとなったとの高い評価を得ております。

今回も昨年の反省を生かして、事前に参加企業紹介のデータを作成し学生に配信する等、改善・工夫をして開催致しましたが、参加頂きました「企業OB・OG」「学生」からはいくつかの課題等も寄せられています。こうした課題・要望を更に次に生かし、より充実した「進路ガイダンス」とすべく活動して行きたいと考えております。

今回の参加者総数 288名  
内訳は

- ・参加企業 75社 (企業OB・OGその他参加者 159名)
- ・参加学生 111名
- ・大学・如学会関係者 18名

進路ガイダンス委員会委員長 齊藤 博



(5号館1階・小講堂)

第1部「業種別仕事紹介」では14名の先輩講師による業種毎の活動紹介が行われました。

□実施日時：2016年11月23日[水]13:00-19:00

□場 所：東京都市大学世田谷キャンパス

□開催の主旨：この企画は「就活を控えた学生と企業代表のOB・OGが本音で語り合うコミュニケーションの場」「学生個々人と大学・OB・OGとの繋がりを大切にしてきた本学の精神の表現の場」を創り出すための試みとして昨年に引き続き開催したものであり、「如学会の役割・存在」を意義あるものとするためのチャレンジでもありました。

□実施プログラム

第1部

業種別仕事紹介 13:00-15:45 会場：5号館1階「小講堂」  
建築関連業界を代表する14の企業のOB・OGの講師の方々から企業・活動の概略につきパワーポイントを用いてお話しいただきました。

	[業種名]	[企業名]	[担当者(卒業年)]
1	官公庁等	神奈川県	高橋徹 (S56)
2	アトリエ設計事務所	三上建築事務所	永井沙知 (H23)
3	構造設計事務所	造研設計	三好敏晴 (H10)
4	組織設計事務所	山下設計	原田聡 (S60)
5	総合建設会社(設計)	竹中工務店	竹島靖人 (H18)
6	総合建設会社(施工)	巴コーポレーション	皆川宏進 (S50)
7	環境・設備関連	新菱冷熱工業	服部輝夫 (S59)
8	ハウスメーカー	三井ホーム	吉澤敏幸 (S52)
9	インテリア・ディスプレイ	三越伊勢丹プロパティデザイン	平田真人 (H01)
10	技術・材料関連	ノザワ	泉山一弘 (H06)
11	鉄道・不動産・ディベロッパー関連	森ビル	今井美希 (H20)
12	エネルギー	東京ガス	鎌田寛人 (S62)
13	マスメディア・情報関連	建築資料研究社/日建教育奉仕会	熱田晴一 (H51)
14	海外留学・海外就職	ノルウェー留学	野沢碧 (H27)

第2部

企業別仕事紹介 16:00-17:30 会場：4号館建築学科棟1階「グランドギャラリー」  
参加企業別に75のテーブルを準備、関心のある企業のOB・OGの方々から直接生の情報を得られる貴重な場を提供することが出来ました。

(五十音順)

官公庁等	荒川区、神奈川県、川崎市、京都府、台東区、UR都市機構、横浜市
アトリエ設計事務所	三上建築事務所
構造設計事務所	造研設計
組織設計事務所	石本建築事務所、伊藤喜三郎建築研究所、NTTファシリティーズ、久米設計、坂倉建築研究所、千代田テクノエース、東急設計コンサルタント、東畑建築事務所、日建設計、日本設計、松田平田設計、三菱地所設計、安井建築事務所、山下設計
総合建設会社	安藤ハザマ、大林組、大本組、奥村組、鹿島建設、五洋建設、佐藤工業、清水建設、西武建設、銭高組、大成建設、高松建設、竹中工務店、鉄建建設、東急建設、戸田建設、飛鳥建設、巴コーポレーション、西松建設、長谷工コーポレーション、藤木工務店、フジタ、三井住友建設、若築建設
環境・設備関連	新菱冷熱工業、大気社、太平エンジニアリング、西原衛生工業所
ハウスメーカー	住友林業ホームテック、積水ハウス、大和ハウス工業、東急ホームズ、長谷川萬治商店、三井ホーム
インテリア・ディスプレイ	丹青社、三越伊勢丹プロパティデザイン
技術・材料関連	旭ビルウォール、三見金属工業、ノザワ
鉄道・不動産・ディベロッパー関連	鈴与三和建物、スターツCAM、住友不動産、大東建託、東急電鉄、ナイス、森ビル
エネルギー	東京ガス、東京電力
マスメディア・情報関連	総合資格、建築資料研究社/日建教育奉仕会
海外留学・海外就職	十河彰、野澤碧

第3部

懇親会 17:30-19:00 会場：1号館4階「ラウンジオーク」  
立食形式の懇親会で、第2部で交流できなかったOB・OGとも更にフランクな形で質疑応答・コミュニケーションの機会を創りだすことが出来ました。

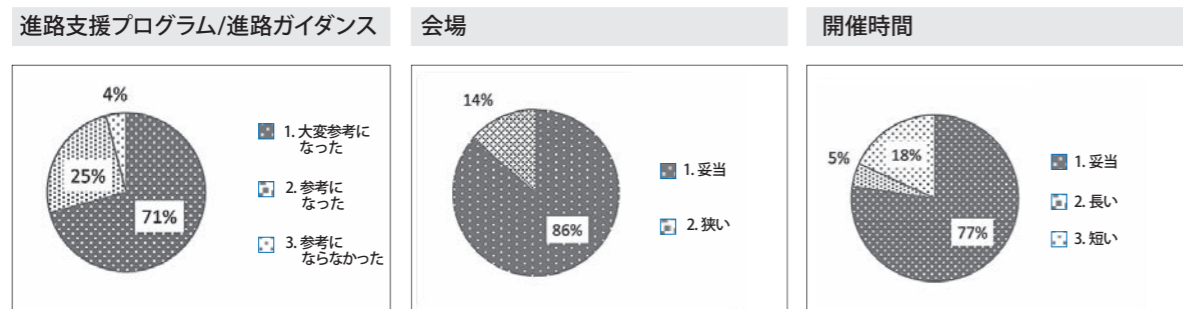


第2部：「企業別仕事紹介」は熱気のあるコミュニケーションの場となりました。（建築学科棟1階・グランドギャラリー）



第3部：「懇親会」ではOB・OGと学生とが親しく交流し、情報を交換することができました。（1号館4階・ラウンジオーク）

## 参加学生アンケート

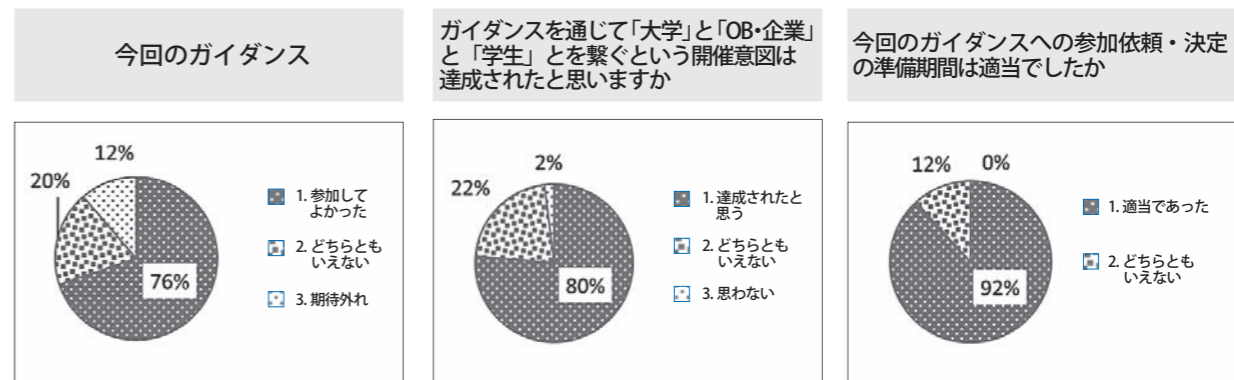


## 「進路ガイダンス」参加学生アンケート結果の評価・総括

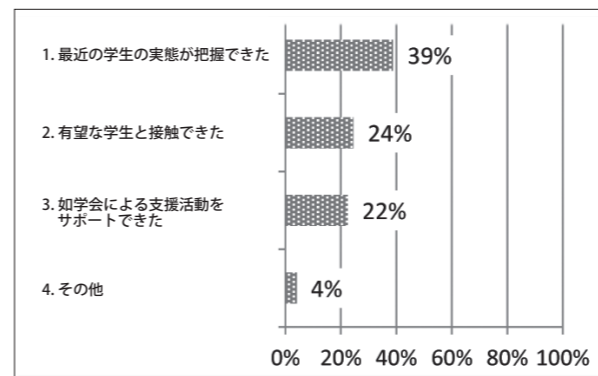
「進路ガイダンス」実施後のアンケートでは「参加学生の96%の方から大変参考になった又は参考になった」との回答が寄せられました。80社と業界を代表する多くの企業のOB・OGに参加頂き、こうした多

方面でOB・OGが活躍されていることを初めて知ったという学生も多く、この「ガイダンス」での出会いを「会社訪問」等、今後積極的に活動する良いチャンス・契機となったとの報告も寄せられています。

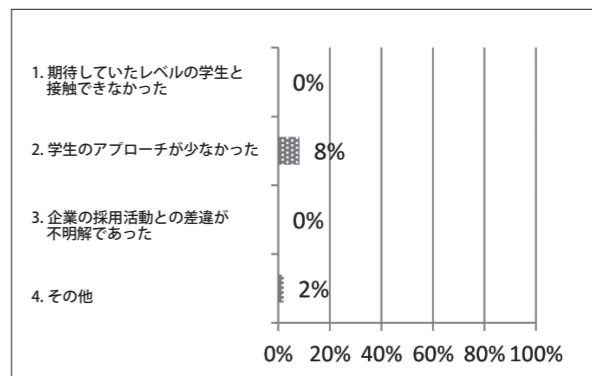
## 参加企業アンケート



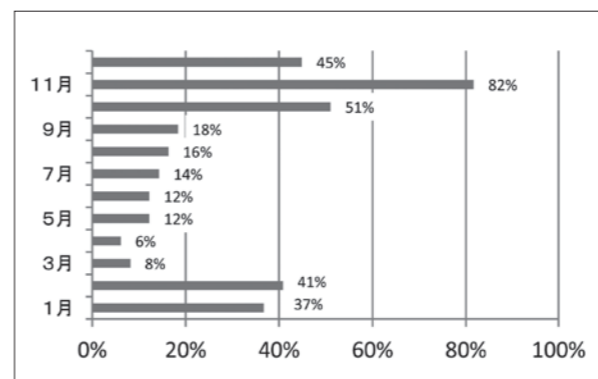
## 参加してよかった（複数回答）



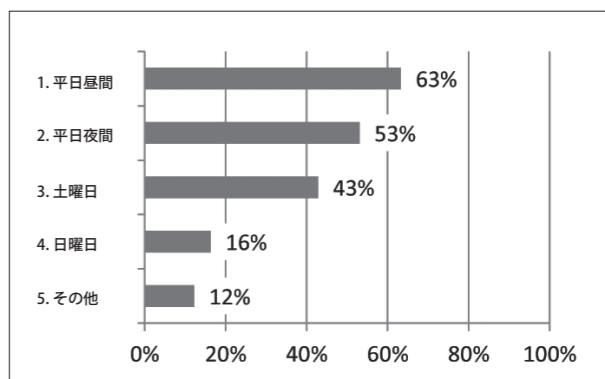
## 期待外れ



## 開催希望時期は（該当しない月は削除）



## 参加しやすい時間帯は（該当しない時間帯は削除）



## 「進路ガイダンス」参加学生アンケート結果の評価・総括

「進路ガイダンス」実施後のアンケートでは「産が企業の76%の方から参加して良かった・有意義であった」とのご回答が寄せられました。また会場・進行等についても貴重なご意見を頂きました。昨年と比べて在校生数が減少したためにガイダンス参加学生総数が減り、各

テーブルへのローテーションが不十分であり、参加企業の皆様には大変御不満の感をお掛けしましたことを深く反省し、次回に向けて「改善・工夫」を図って行きたいと考えております。

「進路ガイダンス」に関するお問い合わせは、当企画担当の「進路ガイダンス委員会委員長 斉藤博（S44卒）  
toshibunka@t-lx.co.jp  
03-5411-3448」宛  
お願い申し上げます。

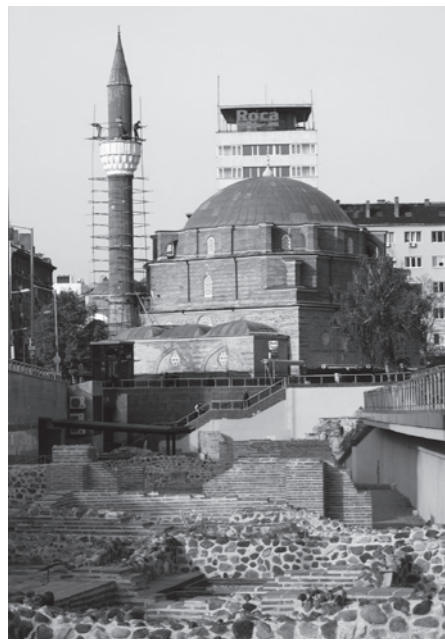
# ブルガリアにおける「縄文」展

2016.10.25 [火] - 10.31 [月]

秋山 邦雄 (S42卒/歴史環境計画研究所)



大使館作成ポスター



セルディカ遺跡 (ローマ時代)



ガラス天窗の下遺構展示

ブルガリア共和国の首都ソフィアで、日本大使館の企画する第27回日本文化月間の催しとして「縄文」展を、日本大使館とブルガリア国立考古博物館の共催を得てブルガリア国立考古博物館の企画展示室で2016年10月25日(火)～31日(月)まで開催してきました。

少し古い話になりますが、1997年8月には「フランスにおける日本年」に、パリ11区にあるギャラリー・サテリートで日本の遺跡を紹介する「遺跡展」を行いました。その時、縄文と弥生を中心とした展示と講演会を行いましたところ、縄文がすごく気に入られました。昨年の11月に「縄文」展コラボを友人のアーティストとパリで開催するために羽田から飛び立とうとした時、ソフィアに出張中の友人から、ブルガリアの日本大使館からオファーがあるからパリでやるような「縄文」展やろうと電話がありました。これが今回の展示会開催のそもそものきっかけでした。

ソフィアの中心地を歩くと、ローマ時代の街並みの遺構が露天で復元されています。また、そのローマ時代の遺跡の向こうにはオスマン時代のモスクを修理している状況が見えたりします。そして、元共産党本部の前には、ちゃんとデザインされた立派な覆屋をかけてローマ時代の遺構が露出展示されています。そして、地上にはきれいな説明板がうまく配られています。

さて、今回の「縄文」展では、縄文時代の大集落の拠点跡として東京都西東京市の「史跡下野谷遺跡」、生業を伴う集落で大きな貝塚のある千葉県千葉市の「史跡加曾利貝塚」、縄文時代の精神文化を示すストーンサークルとして、縄文時代の遺跡を代表する秋田県鹿角市の「特別史跡大湯環状列石」と北秋田市にある4つのストーンサークルを持つ「史跡伊勢堂岱遺跡」を紹介しました。各遺跡の考古学的な内容については各市に原稿づくりをお願いして20枚のパネルを作りました。パネルは最初英語で解説文を作成していましたが、大使館から国立博物館でやるのだからブルガリア語でと連絡が入りました。出発2週間前でしたが現地との連絡にメールを駆使して翻訳・パネルデータの入替え内容チェッ



「縄文」展会場

クをし、パネルに印刷するというギリギリの工程でした。結果として、来訪者のじっくり見入る姿を見て、ブルガリア語で正解と納得しました。

この時の翻訳は、前回のミッションの時の通訳してくれたMilaさんが大部分をしてくれたのですが日本に留学経験もあり、ソフィア大学哲学科出身で「日本の精神文化におけるアニミズム」という論文で博士号を昨年取得したと、再会時に嬉しそうに話してくれたのが印象的でした。

また、パネルの展示だけではわかりにくいので遺物を展示することにしましたが、本物を持っていくのは困難です。そこで友人の縄文土器の復元研究者の戸村正巳氏にお願いし、土偶10点と土器数点を借りて展示いたしました。縄文時代の遮光器土偶はブルガリアでも人気でした。

10月25日の18時から博物館の1階の展示場の真ん中でオープニングパーティがワインと軽いおつまみ付きで行われました。国立博物館のLyudmil Vagalinski 館長さん、山中伸一日本国特命全権大使閣下、トルキア人ゲタイ族の黄金遺宝を発掘された考古学者のDiana Gergova 先生からもご挨拶をいただきました。200人を超える招待客の方々がおいでになり、皆さんの反応は日本の古代は全く知らなかったのでもいい試みだったという意見でした。

翌日、北秋田市学芸員の榎本剛治さんの「日本の新石器文化縄文時代」と題する基調講演を行いましたところ、考古学の専門家からの質疑が多く出ました。私は「日本の遺跡の保存活用」と題して講演行いましたが、建築家からブルガリアの遺跡整備についての質疑がありました。セミナーの最後に、Gergova 先生から次回ぜひ「弥生」をやってほしいというご要望までいただきました。

セミナーの後は山中大使ご夫妻の大使公邸に同行者も一緒におおきいただき、今回の展示会にご尽力いただいた大使館の広報文化担当の木林美和子さん、ブルガリア経済研究所の佐々木文徳さんも交えて晩餐会を開いていただきました。

2回目のブルガリア訪問でしたが、あっという間でした。歴史と自然と文化に恵まれた素晴らしい国ブルガリアの虜にすっかりなっていました。



Diana Gergova 先生と筆者

# 「世界遺産・富岡製糸場バスツアー」に参加して

2016.10.15 [土]

露木 博視 (S55卒/オフィス露木)

主催 : 東京都市大学校友会  
 日時 : 2016年10月15日(土)  
 行程 : 新宿駅西口→聖酒造(工場見学)→水沢庵古堂(昼食)→富岡製糸場→新宿駅西口  
 参加者: 36名  
 如学会参加者: 中村陽一(S38)、藤谷治男(S43)、丹羽謙治(S48)、露木博視(S55)、三好敬晴(H10)、成島奨(H21)



水沢庵古堂(昼食)



聖酒造見学



地元のお祭り



富岡製糸場(東置繭所)



富岡製糸場(製糸所)



水沢庵古堂(昼食)



富岡製糸場(東置繭所正面)



富岡製糸場(東置繭所)



富岡製糸場(資料館)



集合写真(如学会会員)

## ■往路

当日は、朝から快晴で、絶好の見学日和になった。高速道路に入ると事故による大渋滞となっていたが、バス車内では、校友会親睦行事実行委員・金子正樹氏(S55経営卒)の進行で参加者全員の自己紹介が行われ、和気藹々の時間を過ごすことができた。

## ■聖酒造・赤城蔵

天保12年(1841年)創業の聖酒造は、群馬県赤城山西南麓に流れる伏流水を使用している日本酒の醸造元です。最初に日本酒の製造工程の説明を聞き、その後、様々な種類の日本酒を飲み比べた。さすがに大吟醸「関東の華」は、やや辛口ながらすっきりとした味わいで美味しかった。

## ■水沢庵古堂

昼食は日本三大うどんの一つ「水沢うどん」。このお店オリジナルの「水沢坊うどん」と天ぶらの御膳をいただいた。うどんは、透明感のあるつるつるのシコシコで、のど越しがよく絶品だった。お土産に買い、後日食したが、やはり美味しかった。

## ■地元のお祭り

製糸場の周辺では2年に一度の地元のお祭りが開催されていた。何台もの大きな山車(だし)が街中を埋め尽くす盛大なお祭り、バスの駐車場から製糸場までの歩きながらの見物だったが十分に楽しめた。

## ■富岡製糸場

パンフレットによると製糸場内には、国宝の「東置繭所」、「繰糸所」、重文の「女工館」、「首長館(プリユナ館)」など大小約20棟の建物がある。入り口正面に建っている木骨煉瓦造・長さ100mの東置繭所は、明治5年竣工だが富岡市に移譲する前まで管理していた片倉工業株式会社の管理が非常に良かったため、今でもきれいで威厳を保っていた。繰糸所の中に入ると、長く広い場内にギッシリと2列に置かれた繰糸機に圧倒された。稼動していたそのままの状態で保存されていて、繭から糸をつむぐ仕組みが理解できた。加えてボランティアガイドさんの説明により当時の女工さんたち状況などを知ることができた。時間が無く、ゆっくり見学できなかったのが残念だった。

## ■最後に

今回のツアーに参加させていただき、見聞を広めることができたことは言うまでも無いが、鳥取から参加された鳥取支部・支部長(建築卒)の藤谷先輩と知り合うことができたことをはじめ、校友会会員の皆様と親睦が深めたことは私にとって大切な成果となった。

## 第2回 夢キャンパスセミナー

### 「震災後のサポートとまちづくり、福島県いわき市久之浜・大久地区での実践とこれから」

主催：校友会 共催：如学会

講師：鈴木伴栄、栗田祥弘

2016年11月27日 二子玉川ライズ「夢キャンパス」

2012年に始まった“まちづくりサポートチーム”、その成立と今、そしてこれからについて、鈴木伴栄さん（ふるさと便利記者）と栗田祥弘さん（H10卒）に、二子玉川ライズ・オフィス8階の「夢キャンパス」にて、ご講演いただきました。

## サポートチームの発足

栗田 2012年、東日本大震災から1年が経ったときでした。『自分たちに何かできることはないだろうか。自分が建築という教育を受けてきたなかで、被災地をサポートできることってなんだろう。』そんな事を常に考えていました。同じく青年委員会のメンバーである基真由美さんが講師をしている専門学校で、久之浜の復元模型を作成し、その写真をインターネットにアップしたところ、いわき市の住人から「ぜひ、久之浜の復元模型を久之浜においてほしい。」と連絡がありました。それが久之浜との最初の接点でした。

### 『報道されない町』

町の産業は、漁業と魚の加工業がメインでしたが、原発から30kmということで、漁にでることを禁じられていました。魚も手に入らず、町の産業の大半は休業状態でした。久之浜は、福島第一原発の風上に位置していたため、放射線量はあまり高くはなかったのですが、全くないわけでもなく、1ヶ月の全町避難を余儀なくされました。『避難した若い夫婦や子供達はこの町に戻ってくるのだろうか。町の誇りだった漁業を中心とした生活・食文化が、原発事故により完全に破壊され、この先30年の間にこの町はなくなってしまわないか。』という思いを持っていました。さらに、福島第一原発から近かったため、報道陣も寄りつかず、「報道されない町」と言われていました。『この絶望感は、いったい何なんだろう・・・』という思いを胸に、久之浜を訪れました。

### 『明るく前向きにしないと町の復興はない』

いざ、久之浜で町の人たちに会ってみると、皆、笑顔でした。同世代の人たちも、「僕たちの町をなんとかしたいんですよ。」と・・・落ち込んでいて絶望しているのはまちがいないはず。そうであっても“明るく前向きにしないと町の復興は無い”と感じているようでした。

このような人たちがいるのであれば、“久之浜はなんとかできる”、我々が町づくりのサポートをする意味があるのではないかと思います。そこから、久之浜のサポートチームとしての活動が始まり、4年経ったというのが現在の状態です。

### 久之浜大久地区まちづくりサポートチーム

HP：http://www.hisanohama-ooehisa.com

（これまでの活動について、まとめてあります。是非、HPを見て下さい。）



鈴木伴栄 (SUZUKI Tomoe)  
1961年 福島県いわき市生まれ  
専修大学法学部卒業後、テレビ制作会社で16年働く。  
病気のため2001年11月にいわきに戻る。  
商工会などを経て、震災を機に伝える仕事として「ふるさと便利」記者となる。

## ふるさとだよりの記者として

### 『つながる思い、町の絆』

鈴木 いわき市の人口は34万人です。先日、市政50周年の記念イベントが行われました。いわき市の災害対策本部が東日本大震災以後、毎週、市状況（人口の推移）を公表しています。それによると、いわき市の沿岸部から内陸部に1,060名が避難しています。いわき市との関係をもちたいが、やむなく原発事故の影響によりいわき市外に2,500名ほどが避難しています。また他の地区から、いわき市に入ってきた人は、2万4,000名ほどで人口は増えています。久之浜には約5,000名が住んでいて、過疎化、高齢化、少子化という問題があった中で、東日本大震災が起きました。そして今「やるっきゃねいっぺ」とおっしゃって動いておられる方たちがいます。2011年7月6日、「ふるさとだより」が創刊されました。「つながる思い、町の絆」をキャッチフレーズに、バラバラになってしまったコミュニティには、地元の地域情報が必要なのでは、というところからスタートしました。久之浜大久、四倉、平、小名浜、勿来の5地区を5名の記者が張り付いて担当しています。最新号となる67号が2016年12月20日に約9,000部発行されます。回覧板で各戸一世帯づつの配布を基本とし、全国に避難している人には、郵送したり、公共施設での配布もしています。

### 『久之浜に戻りたい』

久之浜の住民はいわき市内の各地区にバラバラに避難したため子供達は、避難先の小学校にバラバラに通っていました。半年ほど経った頃、子供達からの「久之浜に戻りたい」という声を受けて、町の復興対策協議会や校長先生たちが動き、2011年11月から久之浜の元の小学校で授業が行えるようになりました。でも、家は避難しているの、久之浜の小学校へは、避難先からのバス通学でした。小学校が始まってからは、小学校で行われるイベントや、復興対策協議会にできるだけ足を運び、とにかく地元の人たちとふれあう機会を持ちました。久之浜に通い2012年6月24日サポートチームとの出会いがありました。浜風商店街に飾られた「久之浜の復元模型」を前に、模型を作成した基さん、基さんに連絡をくれた小澤さん、そして私の3人の出会いでした。そこから、みんなで考えて、みんなで動いていくことが始まりました。

### 『伝えることの大切さと活動することの大切さ』

15年ほどテレビ番組を作っていたので、伝えることの大切さを身にしみていました。でも、伝える事よりも、汗水かいて仕事をする方がどんなにすごいことだ・・・と、つくづく思っています。伝えるだけではなく、地区のイベントのお手伝いや、除染作業、草刈りなど参加して、久之浜の方々と一緒にいる時間を大切にしています。伝えるだけに“まどろっこしさ”を感じ、町の人々と町づくりのNPOを立ち上げ、来年度から活動して行こうかなと思っています。当然そこには、栗田さん、基さんに参加頂きたいと思っています。

### 『自分たちの久之浜らしさってなんだろう』

町の若い人と話しをしていて、「まちづくりに関して、あれがほしい、これがほしい・・・道路が・・・建物が・・・」というけれど、「ないものなでり」より「あるもの探し」をした方がよいよね。『自分たちの久之浜らしさってなんだろう・・・』と話し合ったことがありました。栗田さん、基さんたちサポートチームにご協力頂いている“小学校の総合学習”でも『久之浜らしさって何だろうね。』と、同じところに行きつきました。これからの未来を考える上で、2050年、久之浜がどうあるべきかを話し合いました。ランドデザインを考えるなかでも、やっぱり“久之浜らしさ”が出発点になりました。私としては「ふるさとだより」としてまとめてきたことが、地域の人たちに渡り、より深く考えて頂き少しずつ実を結ぶかたちになってきて、うれしく思っています。今日こうして、栗田さんから声をかけて頂き、久之浜の人々について話すことができました。来年は、“記者が見た久之浜大久地区”という講座を開いてくれないかという依頼もいただいています。ふるさとだより創刊から5年経ちますが、「続けてきて、良かった。」と思っています。

## サポートチームの紹介

栗田 ボランティアとして、どういう入り方がいいのか。最初に入ったときは諸手を挙げて歓迎された訳ではありません。どこの馬の骨ともわからないヤツがなんか言っているぞ。また、変なヤツら来たと思う人もたくさんいました。少しずつ親しくなった地元の人たちが、すこく丁寧に紹介していただき、徐々に信頼されるようになりました。1年以上はかかったと思います。どういう名前が良いかと考えた末、「久之浜大久地区サポートチーム」を立ち上げました。その「久之浜大久地区まちづくりサポートチーム」を東京都市大学建築学科如学会青年委員会が人的にも資金的にも援助しているという形を作りました。そうすることで、東京都市大以外からも学生が参加できるかたちができあがりました。そして、様々なアイデアを出してきました。建築やアートを学んできた人間の集まりなので、頭を使ったボランティアができないかというかたちで久之浜に入ってきました。そのとき久之浜の人から3つの事を教わりました。【楽しいことしましよう】「せっかく来て頂くなら、楽しいことをしましよう。つまらないことはしないでください。」と言われました。【他の人達ができる事はしない】県が市ができること、地元の人たちができることに手を出さない。【町に対してプライドを持てるように】建築を学びまちづくりを勉強してきたことで町に貢献したい。

### 『Hisanohama Collection』

学生による服作りワークショップから始まり、自分たちで作った服を小学生が着てランウェイを歩く。子供達は、好きな久之浜の写真を選び、その写真に自分が入ったときに素敵だと思う服を作る。自分のまちに愛着を持ってもらうことがまちづくりの第一歩と考えた。

### 『まちと神社』

諏訪神社の宮司さんから、「子供神輿の担ぎ手がない。」という相談を受けた。2013年5月に神輿かつぎの絵本として「まちと神社」という冊子を作成して小学校で配布した。「津波があった地域で神社だけが残った。それは、昔の久之浜の人が、津波で残った場所に神社を移したと考えられる。安全ラインを後生に伝えるための、土地と神社をつかった壮大なメッセージと感じた。我々は、未来へのメッセージとして何を残すのか。まちづくりのはじまりの様に感じた。」

### 『小学校でのまちづくり総合学習』

2013年7月、いわき市立久之浜第一小学校から総合学習の時間を使って、子ども達にまちづくりを考える授業をやりたいという話があった。1グループを大人1と小学生5名程度にわかれ、防災緑地について考えるワークショップを計7回に渡って毎週行った。最後の回で大人の防災緑地のワークショップに子ども達がりこみ総合学習でまとめたことを子ども達の声で発表した。「なるほど・・・」子供たちの考え・思いを大人達が知ることになった。大人が子供の意見をしっかりと受け止め実際のまちづくりに生かしていった。2015年の第2回目の総合学習では、未来のまちづくりをテーマにした。子供たちからでた意見・アイデアは、実現できるものは実現しようという大人達の思いから、愛宕山にベンチを設置した。子供たちのアイデアが町を変えるサイクルが生まれた。そして、その年の総合学習は、“都市景観大賞の優秀賞”というかたちで評価を頂いた。2016年11月現在（当時）、3回目の総合学習をしている。



## 栗田祥弘

H10卒

### 栗田祥弘建築都市研究所



栗田祥弘 (KURITA Yoshihiro)  
1976年 静岡県浜松市生まれ  
1998年に武蔵工業大学工学部建築学科卒業後、アメリカ留学およびオランダで働き、2004年、東京に戻り、隈研吾建築都市設計事務所にて9年ほど働く。2013年に栗田祥弘建築都市研究所を設立し独立。（一般社団法人まちづくりサポートチームを2012年から始め代表理事を務める。）

### 『森と洞窟の図書館』

いわき市立好間第一小学校は、図書館のない小学校で、「小学校に図書館を！」が校長先生の夢でした。校長先生から「本棚と本を集めてみただけで、子供たちが楽しく読書のできる図書館にしたい。」と相談を受けた。子供達から出た意見は、「森の中で、洞窟の中で本を読みたい。」「洞窟のような図書館をつくらう！」と東京都市大学の学生に呼びかけ、600枚の段ボールを使って洞窟を制作。そこには、小学生はもちろん、制作した大学生達の笑顔があった。



### 『古滝屋旅館 1室をボランティアルームとして改修』

いわき市の湯本に長期滞在の原発作業員ではなく、一般の旅行者、親子連れや子どもやの部活動の遠征などの宿泊客を中心に開放している旅館がある。一時的な儲けよりも地域の維持・活性化を選んだということだ。一般の人たちが安心して利用できる最後の砦を作りたいという思いで、「宴会場をボランティアルームとして改修しよう」としたが、銀行からは融資を断られた。何かよいアイデアはないか。」という依頼があった。

宴会室を8人が泊まれるボランティアルームへ、東京都市大と墨田工業高校のコラボが実現した。多くの協力者の力によって、いまボランティアルームの改修工事が行われている。



レポート：青年委員会  
三好敬晴 (H10卒)



## 大須賀常良先生没後 20 年に想う 「学生ファースト」を貫いた先生の教育方針 2016.07.17 富士霊園・墓参の会に 64 名が参集

白鳥健二 (S41 卒・アトリエ COSMOS)

去る 2016 年 7 月 17 日は、大須賀先生がお亡くなりになった 1996 年 5 月 10 日から数えて丁度 20 年と 2 ヶ月目に当たります。永眠されている静岡県富士霊園に皆で墓参しようと、有志等の呼び掛けで研究室 OB・OG、そしてその関係者 64 名が一同に参集して、在りし日の先生を偲びながら親睦を深めることが出来ました。一気に学生時代の先輩・同級・後輩の関係に戻り、昼間から酒飲んで「おい、お前！」と叫び、今を忘れて昔に花を咲かせました。

当日の富士山麓の霊園は初夏の始まりで、辺り一帯の自然林の芽吹きが始まったばかりの、まさに緑が目染める好日の一日、一同一人一人、墓前で想いを込めて献花して、手を合わせながらしばしの沈黙を味わいました。この短い沈黙の中、当時の先生と自分が対話しながら、「何もわからない自分でしたが、先生の愛情溢れる教育指導によって、何とかここまでやって参りました。当時はいろいろ迷惑ばかり掛けて…」などなど…。皆同じような気持ちを無言の内に呟いたのではなかったかと思えます。

そもそも何故学生時代大須賀研究室にお世話になることになったか？大須賀研以外にも幾つもの研究室があったのに、何故だろう。当日参加者の口からいろいろありました。

たとえば増田雅士さん (S43 卒) は、「何故私が大須賀研究室に入ったかと思しますと、実は当時大須賀研究室というのは名も無き研究室でした。最初に先生と面談しまして、その時卒論、卒計は自分の好きなことさせていただけますかということを探ねまして。先生は何をやってもいい、と申しました。」と仰っています。普通は先生の研究テーマを学生が恐る恐るお手伝いする慣わしでした。又、浅石優さん (S45 卒) は「4 年生になる時に、研究室を探さなくてはいけないので、何故大須賀先生だったのかと言うと、多分入ってから自由に来たそうだったのと、もう一つは大須賀先生のキャラが好きだったのかな。」と発言しています。更に若手の野満茂さん (H7 卒) は、「私が何故大須賀研に行こうかなと思ったのは雰囲気が好きで、先輩のお手伝いをしたり、おでんを作ったりとか、先輩達が元気で和気あいあいと。大須賀先生は本当に優しくして、自由にやらせていただける。そんな思い出です。」と述べています。確かに他の研究室の先生方とは違う、先生独特の考えが教育理念として突出しています。

大須賀研究室はあの頃既に「学生ファースト」だったので。そのヒントは「如学会 NEWS」'96 年秋号「特集：追悼・大須賀先生」をお持ちの方は、もう一度読み返して下さい。大須賀イズムを学んで卒業して建築界で才能を伸ばしている多くの方々、墓前に参拝して酒飲んで、呼びあっている闊達な表情を見ると、その理由が一層見えてくる気がします。

墓参はこのあと平成元年卒業の鈴木章浩君を中心に若い世代へ継承して行くことにしています。



鈴木章浩 (H01 卒・久米設計)

2016 年 3 月末、大須賀研究室の先輩でかつヨット部の大先輩でもある、白鳥健二さん (S41 卒) より「大須賀先生の墓参の会」の準備をしているので手伝って欲しいと連絡をいただきました。体育会ヨット部の先輩からの依頼 (すなわち命令!) には、絶対服従であると心身に染みついておりますので、即座に事務局への参加を快諾しました。大須賀先生には公私ともに大変お世話になっていながら、お別れの会以降大学関係の役目を何もして来なかった自分に、大学時代を顧みる良い機会だとも思いました。

白鳥代表幹事の元に事務局メンバーとして、柳澤正行さん (S47 卒)、和田健さん (S49 卒)、川添効一郎さん (S49 卒)、近藤弘文さん (S51 卒)、新井章邦さん (S63 卒) と私の 6 名が集められ、5 月 GW 明けから本格的な準備が始まりました。品川の居酒屋にて、日程候補設定、案内文の作成、出欠確認の名簿整理、交通手段検討、偲ぶ会の式次第、予算計画、会費設定などを話し合い、ときに脱線しながらも代表の手綱さばきで手際良く準備は進んで行きました。昭和卒世代は往復ハガキ、平成世代はメールでの連絡と分担し、開催 1 ヶ月前には 60 名以上の出席を確認できました。30 名くらい集まれば良いかなと話しておりましたので、予想を遥かに超える参加人数に、貸切りパスの手配、乗車場所の確認、偲ぶ会への出欠確認などの作業が加わりました。さいわいに参加予定の皆様はメールアドレスをお知らせいただいたので、その後の連絡はメールリストで一斉配信ができました。

当日は快晴となり、貸切りパスは東京駅と横浜駅から参加者の半数を乗せて、3 連休の中日で若干の渋滞に合いながらも無事に富士霊園に到着しました。管理事務所前にて現地集合組と合流し、先生の墓所にバスと乗用車に分乗して向かいました。先生の墓所は、広大な霊園の中で最も奥深い自然林の中に位置していました。広葉樹に覆われ優しい木漏れ日がキラキラと射し、足元は全面が苔生しており静謐な空気が漂っていました。大須賀先生のお人柄のものを感ぜられる、気持ちの良い空間で『また来たい』と強く思いました。

偲ぶ会は霊園内にて行われ、開会の辞を増田雅士さん (S43 卒)、献杯を永原昌平さん (S39 卒)、途中各世代 5 名ほどのスピーチと、大須賀尚子夫人からのお手紙を披露し、最後は堀場弘さん (S58 卒) の挨拶で締めいただきました。事務局の反省会にて白鳥代表から『何か記念となる冊子のようなモノを作りたいね』との一言をいただきました。鈴木一先生、住吉洋二先生 (S45 卒)、大西洋数さん (S47 卒)、上林ルミさん (S63 卒) にご寄稿いただき、予定より若干遅れはしましたが、年明けに参加者及び返信はがきをいただいた方々、140 名ほどに配送ができました。

事務局では 5 年後、『没後 25 年の墓参の会』を開催することを、新井先輩と私に託されました。全くの偶然ではありますが、新井さんとは順調に進んでも 5 年以上かかるプロジェクトをご一緒させていただいております。プロジェクトが無事に進捗することを祈願しつつ、2021 年の墓参の会の開催を約束させていただき、多くの大須賀研 OB・OG の皆さまとお会いできること、そしてもう一度あの気持ちの良い大須賀先生の墓前に訪れることを楽しみにしております。

## TOPICS



大学展 右：学生展示スペース  
左奥：卒業生展示スペース



上野浅草展  
会場と企画展示研究テーマ対象エリア



右：企画展示 (浅草文化観光センター)  
左：リバーサイドギャラリーの展示内容の縮小レプリカ



デザイン研究会 (浅草文化観光センター)



構造デザイン研究会 (浅草文化観光センター)



都市計画研究会 (浅草文化観光センター)



学生如学会展示エリア  
(隅田公園リバーサイドギャラリー)



墨田公園リバーサイドギャラリー入口受付より望む

## 「建築100人展2016大学展・上野浅草展」開催される

大学展／ 2016.10.29 [土]ー 10.30 [日]:大学  
巡回展／ 2016.12. 1 [木]ー 12.12 [月]:浅草

東京都大学建築学科棟  
浅草文化観光センター  
隅田公園リバーサイドギャラリー

第 11 回建築 100 人展 2016 の大学展は学園祭の開催日である、10 月 29 日 (土)、30 日 (日) の 2 日間、世田谷キャンパス 4 号館建築学科棟で開かれました。出展者 160 名、119 点の作品が建築学科棟を特徴づけているオープンな雰囲気をもままに、本年も在校生の作品展示と一体となった展示となりました。

大学展では、これから志望大学、進路を定める高校生やご父兄が本年も多数で来場いただきました。卒業生の仕事の様子や在校生の労作をみて、建築学の在り様を具体的に感じとり、進路の方向性を考える一助となっています。

巡回展は、「上野浅草展」として台東区浅草にある、浅草文化観光センターと隅田公園リバーサイドギャラリーの 2 会場にて、12 月 1 日 (木) から 12 日 (木) 開催されました。両会場あわせて約 1,900 名にご覧いただきました。

浅草文化観光センターは、浅草寺雷門の前にあり、

## 卒業生と在学生との画期的なコラボが実現

レポート ● 舟岡努 (S52 卒)  
舟岡技術士事務所

力、指導の下、デザイン研究会、構造デザイン研究会、都市研究会が各々テーマを策定し、提案をしています。テーマの策定に当たっては、台東区役所から地域が抱える問題、現在策定している都市計画に関する説明を受け、現地視察をおこないました。また、これまで浅草地域の街づくりに関する提案事例や課題についても具体的に斉藤氏よりレクチャーを受け、実現性のある条件のもとテーマを策定し、研究がすすめられました。

浅草文化観光センターの展示スペースは、卒業生の作品が展示される隅田公園リバーサイドギャラリーへ来場者をいざなう、エントリゲートでもあります。ここには、リバーサイドギャラリーで展示されている作品の縮小版レプリカが設置されています。このレプリカは出展者から提示いただいたデータを編集し不織布に連続プリントしています。新たな掲示方法として、今後の参考になるでしょう。

隅田公園リバーサイドギャラリーは浅草文化観光センターより徒歩 5 分、墨田川河畔の公園内にあります。これまでの巡回展開催会場では最大規模の展示スペースを持っています。潤沢なスペースを生かして、ひとつひとつの作品は見易く、また、大学を紹介するスペースも増やし、あらたに校友会の展示、学生如学会 3 研究会の作品も展示することができました。映像による展示も今回はじめて試しています。

リバーサイドギャラリーへの来場者は約 400 名でした。アンケートを集計してみると、大学展、浅草観光文化センターとは異なる来場者の姿が見えてきます。他大学や海外で建築を学んでいる学生が多く来場しています。OB、OG の作品や成果をこれだけの規模でみられる展示会は他にないようで、設計や

浅草における観光の重要拠点として機能しています。8 階にある展望スペースからは雷門から浅草寺境内にいたる仲見世の夜景撮影スポットとなっています。展示スペースは 7 階にあり、屋上から浅草の風景を楽しみながら屋外階段で展示会場に直接アクセスできます。100 人展の展示に目を引かれて立ち寄られる方は多く、日頃は目にする事のない凝縮した建築の世界を楽しんでおられました。当館への入場者は 8 割が国外からの観光客です。彼らの熱心なまなざしを見てみると、写真や模型をとおして建築、造形に込めた作者の気持ちは言葉を使わずとも伝わるものだとあらためて感じます。

当館は上野浅草を中心とした台東区の文化情報の発信拠点でもあります。100 人展 2016 の展示は、この機会に上野浅草地区の文化に根差した更なる活性化計画の提案を試みました。企画展示として、学生如学会の 3 研究会有志が研究に取り組みその成果が展示されました。台東区役所都市づくり部と以前より浅草の都市づくり計画に尽力してこられたアーバンプランニングの斉藤博氏 (S44 年卒) の協

勉強の良い参考資料ともなり、また、目標とし、いつか自分の仕事を発表できる場があることをうらやましく感じる、とのことでした。これらの来場者に共通しているのは滞在時間が長いことです。ひとつひとつ丁寧にご覧になっています。これは、来場される卒業生にも共通していて、特に同期生や同年代の展示物には大きな刺激を受け、アンケートに「頑張ろう。ありがとう。」と記述される方が少なくありません。今後、作品やその作者とのコミュニケーションがさらに深く、密になる工夫ができると展示会の存在意義もさらに大きくなるのではと考えさせられます。

巡回展の特長のひとつに、ふらっと立ち寄られる方々の存在があります。大学名「東京都大」におやっとう首を傾けて、大学の展示パネルをしげしげと読まれる初老の紳士、はじめて建築というカテゴリーの展示物を見て、楽しそうにご両親と展示品の感想を話す子供たち、反応はまさに様々ですが、大学を広く知っていただく、建築に関心を持っていたく場となっています。

このように、見る人に感動を与えうる作品と成果の数々を、より多くの方々にご覧いただけるように、会員やご協力いただいた皆様と 100 人展を進化させたいと思っております。

協賛企業、共催団体各位、後援をいただいた台東区、開催期間中にご尽力、ご協力いただいた、台東区役所都市づくり部、浅草観光文化センター所員、隅田公園リバーサイドギャラリー管理員の皆様には、この場をお借りして、あらためて御礼を申し上げます。

(関連記事：表紙、P14-17)



大学展

## 東京都市大学「建築100人展／大学展＋上野浅草展」出展者

主催：東京都市大学建築学科同窓会・如学会  
共催：東京都市大学建築学科、東京都市大学同窓会・校友会

ご多忙にもかかわらず、精力的にパネル、模型を作成され、ご出展いただきました各位に敬意を表し、心より感謝申し上げます。

### 特別出展 (敬称略)

濱本卓司	東京都市大学名誉教授
西村功	東京都市大学教授
小林茂雄	東京都市大学教授
岡山理香	東京都市大学准教授

### 出展 (卒年順・敬称略)

猪股昭久 (S32 卒)	コプラン設計事務所
木幡裕充 (S32 卒)	元・日鐵カーテンウォール、元・昭和鋼機
大森康幹 (S33 卒)	大森建築設計事務所
宮本博司 (S33 卒)	宮本設計
岩崎堅一 (S37 卒)	岩崎建築研究室
阿部寧 (S38 卒)	MP0 法人建築・街づくり支援センター
宮本誠記 (S38 卒)	元・佐藤工業
中園正樹 (S39 卒)	松岡平田設計
相原俊弘 (S40 卒)	エス・デー・ジー
野口哲英 (S40 卒)	メドックス
白鳥健二 (S41 卒)	アトリエ COSMOS
秋山邦雄 (S42 卒)	歴史環境計画研究所
小辻武 (S43 卒)	小辻建築計画研究所
吉田勝 (S43 卒)	PAO 設計
斎藤博 (S44 卒)	S・アーバンプランニング
矢野和之 (S44 卒)	文化財保存計画協会
浅石優 (S45 卒)	元・日本設計、元・本学教授
鈴木亨 (S46 卒)	鈴木工務店
新居千秋 (S46 卒)	新居千秋都市建築設計、本学客員教授
山岡嘉彌 (S46 卒)	山岡嘉彌デザイン事務所
渡辺透 (S46 卒)	五島育英会
新居仁 (S48 卒)	元・三菱地所設計
井上富美子 (S48 卒)	井上尚夫総合計画事務所
丹羽謙治 (S48 卒)	デザインサークル
皆川滋 (S48 卒)	版画家
酒井孝博 (S51 卒)	日本設計

熱田晴一 (S51 卒)	日建教育奉仕会
相越信秀 (S52 卒)	鉄建建設
高屋利行 (S52 卒)	高屋設計環境デザインルーム
舟岡努 (S52 卒)	舟岡技術士事務所
北野一彦 (S54 卒)	鉄建建設
小林捨象 (S54 卒)	捨象設計ランドスケープ
露木博視 (S55 卒)	オフィス露木
時女祐一 (S55 卒)	佐藤工業
豊永正登 (S55 卒)	久米設計
伊東俊之 (S56 卒)	野生司環境設計
宗像剛 (S56 卒)	八光建設
片桐岳 (S57 卒)	竹中工務店
清野修平 (S57 卒)	観光企画設計社
小林秀憲 (S57 卒)	松岡平田設計
本多豊 (S57 卒)	L A N
村松弘治 (S57 卒)	安井建築設計事務所
荒尾拓司 (S58 卒)	飛鳥建設
榎本幸男 (S58 卒)	baubild
遠藤謙一良 (S58 卒)	遠藤建築アトリエ
瀬下耕司 (S58 卒)	鉄建建設
堀場弘 (S58 卒)	シーラカンズ K&H、本学教授
益子一彦 (S58 卒)	三上建築事務所
池田勝彦 (S59 卒)	イオンアーキテクト
井手動 (S59 卒)	イオンアーキテクト
大藪元宏 (S59 卒)	大藪元宏建築研究所
川口英俊 (S59 卒)	東京都市大学教授
芝本敏彦 (S59 卒)	山下設計
白石誠 (S59 卒)	新居千秋都市建築設計
西澤信二 (S59 卒)	東急電鉄
山極裕史 (S59 卒)	三菱地所設計
吉崎良一 (S59 卒)	新居千秋都市建築設計
原田聡 (S60 卒)	山下設計

丸目明寛 (S60 卒)	久米設計
上田克行 (S61 卒)	久米設計
山本裕之 (S61 卒)	観光企画設計社
大槻治彦 (S62 卒)	飛鳥建設
川村和広 (S62 卒)	sola associates
手塚貴晴 (S62 卒)	手塚建築研究所、本学教授
油谷康史 (S63 卒)	久米設計
新井章邦 (S63 卒)	森ビル
伊藤彰 (S63 卒)	久米設計
金子正雄 (S63 卒)	K K S INTERNATIONAL
金子清 (S63 卒)	東急建設
小見山信巴 (S63 卒)	久米設計
佐々木健 (S63 卒)	ケンアンドスタジオバンガード
東正典 (H01 卒)	日本設計
鈴木章浩 (H01 卒)	久米設計
辻秀治 (H01 卒)	久米設計
伊藤学 (H02 卒)	久米設計
柏木穂波 (H02 卒)	カンワギ・スイ・アソシエイツ
中山宏史 (H02 卒)	久米設計
福島加津也 (H02 卒)	福島加津也+富永祥子建築設計事務所、本学教授
三田知男 (H02 卒)	山下設計
井上宏 (H03 卒)	久米設計
桐賢史 (H03 卒)	久米設計
齋藤康晴 (H03 卒)	久米設計
寺内朋子 (H03 卒)	建築技術
石田有作 (H04 卒)	アーキヴィジョン広谷スタジオ
手塚由比 (H04 卒)	手塚建築研究所
和栗晋 (H04 卒)	久米設計
東禎司 (H05 卒)	森ビル
中野貴裕 (H05 卒)	久米設計
福田真司 (H05 卒)	久米設計
町田穂ドロテア (H05 卒)	町田ひろ子アカデミー

守谷眞儀 (H05 卒)	松岡平田設計
山田浩嗣 (H05 卒)	住友林業
小栗幹雄 (H06 卒)	ラウンドテーブル
桑原茂 (H06 卒)	桑原茂建築設計事務所
根田佳史 (H06 卒)	森ビル
根津幸子 (H06 卒)	urbanberry design
飯塚正規 (H07 卒)	松岡平田設計
千野保幸 (H07 卒)	日本設計
荒井智康 (H08 卒)	久米設計
古山明義 (H08 卒)	日建ハウジングシステム
横田順 (H08 卒)	久米設計
栗田祥弘 (H10 卒)	栗田祥弘建築都市研究所
三好敏晴 (H10 卒)	造研設計
佐藤真紀 (H11 卒)	日本設計
眞田大輔 (H11 卒)	ずわ製作所
洪谷篤 (H11 卒)	日建ハウジングシステム
藤部竜太 (H11 卒)	浦建築研究所
富川浩史 (H11 卒)	富川浩史建築設計事務所
古屋歴 (H11 卒)	建築画報社
新居未陸 (H12 卒)	新居千秋都市建築設計
岩崎匠 (H12 卒)	竹中工務店
松谷悟詞 (H12 卒)	久米設計
基真由美 (H12 卒)	MAD
諏訪太郎 (H13 卒)	観光企画設計社
植谷英子 (H14 卒)	山岡嘉彌デザイン事務所
岡崎史靖 (H14 卒)	久米設計
鈴木宏亮 (H14 卒)	一級建築士事務所すずき
永山剛 (H14 卒)	坂倉建築研究所
矢嶋陽介 (H14 卒)	観光企画設計社
秋田信行 (H15 卒)	久米設計
野呂学 (H15 卒)	松岡平田設計
工藤真紀 (H17 卒)	山下設計

増田玄 (H17 卒)	日建ハウジングシステム
辻村典子 (H18 卒)	東畑建築事務所
中田裕一 (H18 卒)	中田製作所
中田理恵 (H18 卒)	中田製作所
能作淳平 (H18 卒)	能作淳平建築設計事務所
浅井百合 (H19 卒)	浅井アーキテクト
磯部耕平 (H19 卒)	松岡平田設計
高橋良弘 (H19 卒)	山下設計
望月孝浩 (H19 卒)	イオンアーキテクト
平田駿 (H20 卒)	久米設計
松下大志 (H20 卒)	石本建築事務所
渡辺啓人 (H20 卒)	久米設計
荘司拓 (H21 卒)	松岡平田設計
田中祐太 (H21 卒)	三上建築事務所
中村友亮 (H21 卒)	久米設計
成島奨 (H21 卒)	PAO 設計
大澤洋介 (H23 卒)	久米設計
柿添宏 (H23 卒)	久米設計
鈴木暁允 (H23 卒)	久米設計
永井沙知 (H23 卒)	三上建築事務所
浅井英明 (H24 卒)	久米設計
斎藤勝弥 (H24 卒)	三上建築事務所
杉本渉 (H24 卒)	三上建築事務所
平崎昂 (H24 卒)	久米設計
町山玉魚 (H24 卒)	東畑建築事務所
小方信行 (H25 卒)	久米設計
川又祐介 (H25 卒)	三上建築事務所
佐藤拓朗 (H25 卒)	三上建築事務所
前博之 (H25 卒)	久米設計
松本悟志 (H25 卒)	三上建築事務所
木血康彦 (H26 卒)	飛鳥建設
高麗夏実 (H26 卒)	三上建築事務所

畑雄人 (H26 卒)	東畑建築事務所
飯島広大 (H28 卒)	久米設計
篠崎亮平 (学外)	
中田利夫 (学外)	

出展者総数	160 名
内・卒業生	156 名
昭和年度	71 名 (46%)
平成年度	85 名 (54%)
学外出展者	2 名

ご協力・ご協賛いただきました各社、各位には厚く御礼申し上げます。(敬称略・順不同)

協力	台東区役所 浅草文化観光センター 隅田公園リバーサイドギャラリー
協賛企業	総合資格 新星商事 ウッドイワールド 鉄建建設 久米設計
個人協賛	小澤紀

# 2016.10.29[土]ー10.30[日] 東京都市大学「建築100人展2016・大学展」＋「上野浅草展」盛大に開催

東京都市大学建築学科グランドギャラリー

2016.12.1[木]ー12[月]  
浅草文化観光センター  
隅田公園リバーサイドギャラリー



上野浅草展・第1会場 浅草文化観光センター



第2会場 隅田公園リバーサイドギャラリー





■100人展良かったです。幅広く活躍されている先輩方に皆さんも続いてくださいね。(在校生父母・40代女性)

■下の子の進路の参考のために来ました。面白かった。(在校生父兄・男性)

■建築学科を希望して受験勉強中です。良い刺激になりました。(高校3年・男性)

■第一希望の大学学部ということもあり、大変参考になりました。皆さんの作品が拝見でき受験生にとっても建築学がイメージしやすいと感じました。(受験生父母・40代女性)

■将来建築士になり、なかでも光や色を使い建物をきれいにさせるライトアップの技術を得意とする仕事に就きたいと思っている。100人展を見ることで、自分は建築のほんの一部しか知らない事に気が付いた。建築学の可能性をもっと知ってみたいと思った。(高校3年・男性)

■どれも素晴らしい作品ばかりで見ていて飽きなかった。(高校3年・男性)

■いろいろな形の建物見れて楽しかった。形だけではなく、風通しの良さや崩れにくさなども考えて設計して大変だけど楽しそうだった。(高校2年・女性)

■毎年来ていますが、都度工夫がみられて素晴らしいと思います。刺激される内容も多々あります。今後も継続されることを希望しております。(50代・男性)

■OB、OGの活躍を見ることができ興味深かった。意匠系だけでなく環境系(空調・照明)、構造系にももう少し風を向けると幅が広がるかと思いました。(卒業生・40代男性)

■パネルだけでなく、模型があるとそのデザインがよくわかり、見ていて飽きなかった。模型でも実際に木々や人を配置することでイメージが膨らむし、建物である以上そこに人という存在は欠かせないものと思った。写真だけのものでも、材料(木など)の質感、明かりなど雰囲気は伝わってくるので、目に止まるものが多かった。(20代・本学他学科学生)

■都市大OB・OGが日本、世界の第一線で活躍していることを知り、とても感動しました。建築は人と社会と自然をつなぐものだとあらためて感じました。とても素敵な展示会でした。(30代・女性)

■どの作品もすばらしい一言です。頑張っている方々の作品を観ると、私自身も頑張ろうといった前向きな気持ちになりました。(60代・男性)

■建築は全くの素人でよくわかりませんが、どの作品も発想が豊かで個性あふれるものが多くあり、今までは建物に興味なかったのですが、これを機会にたくさんの建築をみていきたいと感じました。(40代・女性)

■卒業した大学のOBの方々の作品を見られる機会があることがすばらしく、ありがたいことです。勉強にもなり、将来自分もこの100人展に出せるように頑張りたいと思います。(卒業生・20代男性)

■多くの同期の作品が見られ、刺激を受けました。(卒業生・50代男性)

■卒業生の凄さが実感できて、身がひきしまる思いだ。(在校生・男性)

■100人展は、自分の大学の先輩のいろいろな作品が見れて良い経験になりました。(在校生・女性)

■このような大規模な展示会があつて少しうらやましく思いました。先輩方の活動を知ることができる貴重な機会だと思います。(他大学学生・女性)

■学校の卒業生がどんなことをしているのかというのはとても興味があるので面白かった。自分の大学でも行なってほしい。(他大学学生・男性)

■現在、大学の授業で設計課題をやっており、いろいろと参考になりました。自分では思いつかないものや、見た目も機能面も重視されたものが多く、見ていて楽しかったです。(他大学学生・女性)

上野浅草展

**建築100人展、東京・浅草で12日まで** 東京都市大学建築学科同窓会

卒業生の活躍を一瞥に紹介する「上野浅草展」の街作りを提案(第1会場)

「如学会」が、卒業生の活動を紹介する「建築100人展2016・上野浅草展」を東京都台東区の上野公園で開催している。約8000人の会員のうち意匠や構造、設備、家具、インテリア、絵画など幅広い分野で活躍している160人以上がパネルや模型、制作作品などを出展。在校生が取り組んだ研究や課題の成果も紹介している。12日まで、建築100人展は、建築学科OB・OGの多岐にわたる実社会での活動を紹介するため、2006年に新建築学科棟の落成記念として初開催。その後、毎年恒例の行事となり、5回目(10年)から学外展示(巡回展)も始まった。

今年の学外展示は浅草・雷門前の浅草観光文化センター(第1会場)と隅田川沿いの隅田公園パライドギャラリー(第2会場)の2カ所で開催。第1会場には卒業生が活躍したパネル(縮小版)のほか、在校生の三つの研究会(構造デザイン、デザイン、都市計画)の3年生による「上野浅草」をテーマにした街作りを模型やパネルで提案している。隅田川沿いの公園に面した第2会場は長さ約110mの展示スペースで、卒業生が新作にたらず過去の代表作や自作を写真や模型、図面などで紹介。3研究会の2年生が取り組んだインスタレーションや、建築学科教員の活動紹介なども同時展示している。

如学会の山岡副会長は「台東区の協力を得て、国内外の観光客が集まる浅草の街で100人展を開催することができた。100以上の展示スペースは今まで最大規模。多くの人たちに両会場を楽しんでもらいたい」と話した。

開催時間は午前9時から午後8時。入場無料。

「日刊建設工業新聞」2016年12月06日

建築100人展2016  
大学展・上野浅草展  
ドキュメント

「建築100人展」如学会、12日まで開催

東京都市大学建築学科同窓会(如学会)と同大建築学科は、東京都台東区の上野公園パライドギャラリーと隅田公園パライドセンターにて卒業生と在校生の作品や研究発表を展示する「建築100人展」を12日まで開催し、1日のオープニングパーティーでいよいよ上野公園会場は、「上野浅草展」を開催する。この会場にも優れた作品があり、それぞれの会場で楽しんでもらいたい」と話した。

また、来賓として出席した総合校の岸副校長は「展示物には素晴らしい作品が多かった」と話した。

卒業生の皆さんがこれからも建築設計業界で活躍することを祈念している」とあいさつした。

開催時間は午前9時から午後8時まで。入場無料。

「日刊建設通信新聞」2016年12月06日

卒業生100人の社会における活動を紹介します。

大学展：2017年11月4日[土]-11月5日[日] 会場：建築学科棟(東京都市大学世田谷キャンパス4号館)

11/3 [金・祝]	11/4 [土]	11/5 [日]	11/6 [月]
	「建築100人展 2017〈大学展〉」 10:00~18:00 入場無料		搬出・撤収日
搬入・設営日	「建築100人展 2017〈巡回展〉」 10:00~18:00 入場無料		出展作品は委員の手により搬送、保管の上「巡回展」会場に移動
各自で搬入又は郵送	TCU祭		
詳細は今後のホームページ、メールマガジン「如学会NEWS2017秋号」にてお知らせします。			

巡回展：開催スケジュール、会場 未定(後日、メールマガジン、HP、「如学会NEWS・2017秋号」にてお知らせします。)

「巡回展」開催日程・会場未定(交渉中)			
搬入・設営日	「建築100人展 2017〈巡回展〉」 10:00~18:00 入場無料		搬出
	オープニングパーティ		搬出車両に荷積みし、倉庫に保管後日、大学にて郵送作業

- 募集内容参考例
- ジャンルの特定は致しません。多分野からのご出展を受け付けております。
- ・意匠(建築設計/インテリア)
  - ・構造
  - ・施工/工法(施工や管理における提案など)
  - ・建築材料(開発や研究を含む)
  - ・環境/設備(空調計画や照明計画など)
  - ・ランドスケープデザイン
  - ・家具/プロダクトデザイン
  - ・写真/グラフィックデザイン
  - ・アート
  - ・ワークショップ活動記録
  - ・メディア記録(雑誌の編集発行/WEBによる情報発信)

- 「100人展」出展は建築界、企業、大学等への「登龍門」となっています。企業に所属されている若い方々の出展を歓迎します。
- ご自身での出展準備・搬入・搬出が困難な方はお手伝い致しますのでご相談ください。
- 会期：2017年11月4日[土]-5日[日](搬入：11月3日/搬出11月6日)
- 会場：東京都市大学世田谷キャンパス4号館・建築学科棟1階グランドギャラリー(製図室)
- 郵送・搬入先：〒158-8557 東京都世田谷区玉堤1-28-1  
東京都市大学建築学科 担当 鈴木浩宛(郵送の場合は、11月2日午前必着)
- 出展料：7,000円(如学会会費未納者は会費+出展料=10,000円)(予定)
- 振込先：みずほ銀行 自由が丘支店 普通口座：1779875  
口座名：ジョガクカイ「如学会」
- 出展希望・問い合わせ連絡先  
建築100人展実行委員長 丹羽謙治  
E-MAIL：100ninten2017@jogakkai.jp

の力

建築100人展2017 | 大学展 2017.11.04 ▶ 11.05 | 巡回展

卒業生100人の活動を集めました。

東京都市大学 主催：東京都市大学建築学科同窓会「如学会」  
共催：東京都市大学建築学科

東京都市大学 世田谷キャンパス 建築学科棟  
東京都世田谷区玉堤1-28-1  
アクセス：大塚駅南口徒歩10分  
有明駅西口徒歩15分

開催期間  
11.04(土) 11.05(日)  
10:00-18:00(混雑時は17:00まで)

## 女流ファイル Part15

社会の多方面で活躍する女性卒業生を  
順次ご紹介しています。

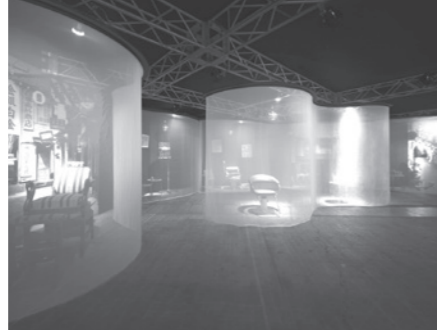
# 平山彬子

(H20 卒)

■file-76  
プロモーションの仕事はわくわくを伝える仕事



**HIRAYAMA Akiko**  
2008年 武蔵工業大学建築学科卒業(手塚研究室)  
2010年 武蔵工業大学大学院建築学専攻 修了  
(手塚研究室)  
2010年 博展 (空間デザイナー)  
2014年 博展 (アートディレクター)  
2016年 博展 (チーフアートディレクター)



「TWBC2016」の空間デザイン

手塚研究室卒業後、株式会社博展に空間デザイナーとして入社し、企業のプロモーションに関わるイベントや商談の場の空間デザインや演出を行ってきました。入社5年目にアートディレクターとなり、企画立案から空間デザイン・映像・グラフィック・デジタルコンテンツなどのクリエイティブ統括を行なう役割となり、より幅広い仕事をできるようになりました。

あらゆる業界のお客様のプロモーション提案をしていくため、常に業界や最新技術の勉強をしています。学生の頃に学んでいた建築とは異なる世界ですが、手塚先生から学んだ「その空間で起こる出来事(体験)の価値」について常に考え、模索する毎日です。

理美容向け製品を扱うタカラベルモント様のプライベートショー「TWBC2016」を担当した際、空間における体験価値についてとても悩み、挑んだ仕事でした。

このイベントは、ヘアショーやエキシビション、コンテスト、セミナーなど多くの内容が盛り込まれた理美容従事者のためのイベントです。理美容業界の活性化を目的とし、業界の未来を担う人たちに希望を与えるのが大きな目標でした。

これから日本の美容を担う、若い美容師や学生



「TWBC2016」の空間デザイン

達が、自分や業界の未来を考え、「明日からこれをやろう」「こんな美容師になりたい」と目標を持って前に進めることを目指しました。

広い会場とたくさんの内容を体験する中で、一つの強いメッセージを伝えるために、近未来惑星「TAKARA PLANET」というデザインコンセプトを作成し、すべての内容が、近未来世界で繰り広げられるタカラベルモントの理想型として来場者へ訴求しました。メインのエキシビションエリアでは、近未来サロンを20個程作成し、理美容がどのように日本の社会と繋がり、貢献していくのかを考えた新しいサロンデザインを提案しました。

実際の来場者インタビューでは、「良い刺激になった」「はやく帰って仕事がしたくなった」「自分にできることがもっとたくさんあるのだと気づけた」など、当初の目的が達成できたと実感できるコメントをたくさん頂きました。

企業様のプロモーションのお手伝いをしていく中で、その空間やデザインがいかに来場者の心に届き、感動を与えていくかを常に考えています。来場者や使用者によって、そのメッセージの届き方は異なります。どのように届けるのが、一番面白く、わくわくするのか。それをこれからも考えていきたいです。(博展)

## ■file-77

心の声に耳を傾ける空間づくり&ライフデザイン

# 相邑美佐江

(S56 卒)

**AIMU Misae**  
1981年 武蔵工業大学建築学科卒業(鈴木研究室)  
1981年 三井建設  
1982年 秀建築設計事務所  
1987年 根岸俊雄都市建築設計事務所  
1991年 - ナウミスペース 設立 代表取締役(現在)



止め、自分の内側に意識を向けること。最近、マインドフルネスや瞑想に取り組む人が増えていますが、目的は同じで、私は20年以上前から実践してきました。著書『相邑美佐江のヒーリング・デザイン』(文芸社発行)の中で、その具体的な方法をご紹介します。

直感力を使った独自のデザイン法で、空間デザイン、製品デザイン、ヒーリングアート製作など、幅広く活動してきました。テレビやラジオの出演、新聞、雑誌連載など、メディアでの発信も多数ありました。

現在は、集合住宅と介護付老人ホームの建築依頼を受け、農地を宅地化する調査から、建物の外観、内装のデザイン設計、完成後のマンション管理経営まで、クライアント様の要望を叶えるトータルな住まいづくりに取り組んでいます。

また、デザインの仕事と並行して、ヒーリングスクールを開講。カリフォルニア州公認インディタイプ(直感を使った)カウンセラーの資格を活かし、人々が心身のバランスを整え、健康で幸せな人生を送れるようサポートしています。自分ら

しさの創造や問題解決法などの指導、ヒーラー養成なども行い、卒業生を大勢輩出しました。

今でこそ“スピリチュアル”“ヒーリング”という言葉はポピュラーですが、20数年前に癒しの必要性に気づき、先駆的な活動をしてきたと自負しています。そもそも、私自身が空間デザイナーとして駆け出しの頃、超多忙な仕事環境でストレスを抱え、不眠症に陥った時にヒーリングを受けたのがきっかけでした。以来、自分の心の声に導かれ、思いがすんなり実現するミラクルを経験し続けています。

人があるがままの自分でいられる居心地のいい空間を、世界中に広めていく。それが私のビジョンです。豊かな人生を送るには、ライフデザインが重要です。自分の魅力を引き出しどう表現するかは、自分をデザインすることに他なりません。「デザイン」を通して貢献することが私の喜びであり、心の声に従う生き方なのです。

あなたもご自身のハートを感じ、耳を傾けてみてください。

(ナウミスペース)

■file-78 現場での経験と人との関わりを大事に

# 松永咲子

(H18 卒)



**MATSUNAGA Sakiko**  
2006年 武蔵工業大学建築学科卒業(西村研究室)  
2008年 武蔵工業大学大学院修了(西村研究室)  
2008年 - 日建ハウジングシステム

私は集合住宅を専門とする総合設計事務所まで構造設計の仕事をしています。職種は構造設計ということになりますが、私の事務所は監理も行っているため、設計を終えた物件が着工すると、施工者とやり取りを行い、実際に施工するための細かい調整や、現場に向いて構造躯体の検査等も行ないます。

入社して8年の間で、小規模な低層マンションから大規模な団地の建替え、超高層など様々な規模の建物の設計に携わりました。最近では15階建ての住宅・店舗・事務所の用途が入る複合ビルの構造設計や、昨年設計を終えた免震構造の12階建てのマンションの現場との調整を行なっています。



桜上水ガーデンズ

施工現場では、設計中に想定できなかった問題に直面することもあります。元の構造計算や現場の工程に影響が出ないように調整や設計変更を行ないます。

私がこの仕事の中で最もやりがいを感じる瞬間は、施工現場にあります。

その瞬間は、自分が構造設計した建物の現場に検査等で向いた際に、自分が引いた線や計算した数字の通りに沢山の職人さんが鉄筋を組んで働いている場に立ち会った時です。自分が建物の根底となる部分を決めているということを実感し、やりがいと共に責任の大きさも感じます。

また、現場での経験を踏まえて改めて感じたの

■file-79 今だからできること

# 鈴木智子

(S52 卒)

**SUZUKI Tomoko**  
1977年 武蔵工業大学建築学科卒業(広瀬研究室)  
1977-2014年 大成建設 設計本部  
2014年 - 岡野建築設計事務所



軽井沢の住宅



初めての超高層

私の設計の歴史は37年間動めたゼネコンにあります。

何故私が構造に配属されたのですか？僕は大学の子を持ってみたかったのだ。これが1977年当時のゼネコンの体質でした。さからい続けて1年、たまたまあいた意匠設計の席に配属替えとなりました。一年たったらやめようと退職願を出す一日前でした。

意匠設計では当初、住宅、別荘、小規模マンションを主に携いました。空間の構成の変化に興味があり面白い仕事でした。うちの会社で女性は認めてもらえないから一人で住宅、小規模マンションくらいでできるようになった方がよいという上司の配慮でした。しかし、回りはゼネコンのメイン仕事であるオフィス設計しており、私もその仲間に入りたいと思いましたが、施主の前に女は出せないなどいわれ、なかなかオフィス用途にかかわれませんでした。

平成3年にそれまでの担当職から第一期女性総合職となり、回りの状況が一変しました。自分の言葉で仕事が動いていくのです。とても感激しました。それからは、オフィスを中心としているような設計にかかわらせていただきました。超高層も2本経験しました。時代が悪く仕事が少なくなるとは、リニューアルとデータセンター分野の開拓に携わりました。特にリニューアルはバンフレッ



ウェリスタワー 愛宕虎ノ門

が、普段何気なく過ごしている建物のすべてが手作りの一品生産で、世界に一つとして同じ建物はないということです。そして、施工者とのように関わると、作る過程も、かかる時間も、出来る上がる物の品質も、良くも悪くも変わりうる可能性があるということです。施工者と、時には鉄筋を組む大工さんと一緒になって悩んで、うまく設計を納めることが出来たときは、とても連帯感が生まれますし、そうして完成した建物にはとても愛着がわきます。

現場での経験や沢山の方々との関わりを大事に、これからもより良い建物が建てられるよう頑張っていこうと思います。(日建ハウジングシステム)



トに残る仕事をしようと目標を掲げ、BELCA賞とニューオフィス賞をいただきました。住宅、リゾート施設、オフィス、データセンターなどいろいろな分野を体験できて、ふりかえれば充実した37年間のゼネコン設計部でした。

さて、私は今の設計事務所に勤めて3年になります。当初は仕事、規模・組織や人間関係において、前との違いに大いに戸惑いました。仕事の内容は主に設計協力と官庁の設計です。設計協力事務所といっても、ただ言われたことを書くだけでは、協力しているとは言えません。設計者の意図がどこにあるのか、その先の施主は何を望んでいるのかを理解しなければ図面化してもお客様の満足は得られません。担当者が自主的に建築に向かい、大きな方針のもとに提案をしていながら仕事を進める必要があります。これは設計することと同じだと考えています。そこで2年先に入った先輩と「変わる・変える」をテーマに掲げ意識改革と組織改革および設計指導を行なっています。3年たっただいぶん社内の雰囲気はよくなって、積極性・自主性が出てきたと思います。

今だから私のできることは、微力ながら社員皆が明るく楽しく意志を持って豊かに日々を過ごすようになるように応援していくことかと思っています。でも少しだけ設計もさせていただきながら。(岡野建築設計事務所)

## 武蔵工業大学建築学科合同同窓会 2016 S55～58 卒有志

2016.9.8 [木]

小堀 透 (S55 卒/計画技術研究所)



アンタガサドコサ恵比寿店



参加者全員での集合写真



左より：手塚さん、安間さん、時女さん、三宅さん、豊永さん



左より：井坂さん、勝又さん、亀井さん、坪内さん

同窓の集まりは、例年、研究室単位、卒業年単位、親しい友人同士では、各年代でそれぞれ定期的な集まりが設けられていると思います。そうした普段交流のある研究室や同期仲間にとどまらず、今回の会は、S55 年卒業の代が中心となり、年齢 60 を超えはじめたのを一つの節目として、学生当時の友人関係、先輩後輩関係の伝手をたよりに、年代を超えより広く声掛けしようという主旨で同窓会を開くこととなりました。

当日会場は、恵比寿のレストランを貸し切り、平日夜にもかかわらず、開演前からぞくぞくと懐かしい顔ぶれが集まってまいりました。四世代男女合わせて総勢 38 名の参加者がありました。

開演定刻となり、まずは、S55 年卒業の東京都市大学教授の勝又英明先生から、建築学科の近況と、乾杯の発声を賜り、賑やかな会がスタートしました。

続いて各卒業年、各研究室などを中心に、参加された皆さんの自己紹介をしていただきました。建築の業界はもとより様々な分野で活躍されてきた面々の近況報告を伺いながら、一方では、あらかじめセットされたスクリーンに、学生当時の写真が次々と映し出され、若かりし頃の思い出話にも花が咲きました。

大学を卒業して 40 年近くになりましたが、あの顔この顔、会えば 40 年の歳月を超えて、普段、重責を担っている諸氏も若かりしあの頃に戻っていきます。懐かしい旧校舎や製図室、課題や卒論で徹夜したこと、先輩の卒業設計の手伝いをさせられたこと、今の都市大の建築学科では考えられない男女比、などなど。次々とあの頃の懐かしい記憶が蘇ってまいります。同窓会冥利に尽きるひと時です。

各世代、各研究室の垣根を超えつつ、

話の尽きない三時間近くの楽しい時間もあっという間に過ぎてしまいます。最後に来年もまた皆さんとお会いできることを願いつつ、出席者全員での手締めを経て散会となりました。まだまだ語り足りない面々は、そのまま二次会へと流れて行ったようです。

お忙しい中、また遠く全国各地より、お集まり頂いた同窓諸氏に、改めてお礼を申し上げます。

今回、残念ながら参加できなかった同窓の皆様、また初回の準備不足によりお声がけできなかった同窓の先輩後輩諸氏の皆様、次回のご参加を心よりお待ちしております。

数か月にわたって名簿の整理、案内状作成、会場の選定と、幹事役を共に担ってくれた同期の露木博視さん、また声掛けにあたっては、快くそれぞれの代の連絡役を買って出てくれた同窓の皆さんに、お礼申し上げます。

次回は、S56 年卒の有志の方々にバトンを引き継いで行きます。これからもまたこの会が続いていきますことを願っております。

### 参加者 (敬称略)

S55 年卒 21 名  
安間正伸、相邑美佐江、井坂一、太田裕之、勝又英明、亀井保、岸知実、小堀透、坂本慎一、佐治義之、相馬吉克、園田和義、高橋博幸、坪内洋二、露木博視、手塚雅仁、時女祐一、豊永正登、新野薫、服部誠、吉松晃士  
S56 年卒 11 名  
岩城良二、篠塚啓、鈴木良典、鈴木裕美、千葉孝、新妻大祐、伴宣久、宗像智加枝、村田喜一、山本哲也、吉田昭夫  
S57 年卒 5 名  
小林秀憲、高階成造、中島実、三宅信夫、弓削昌義  
S58 年卒 1 名  
伊藤光生

## 「いつもの仲間の同窓会：S51～S54 年卒」 山中温泉・近隣周遊レポート

2016.11.27 [日] - 29 [火]

酒井孝博 (S51 卒/日本設計)

船越正生 (S53 卒/船越正生建築設計事務所)



山中温泉河鹿荘ロイヤルホテルでの懇親会



総ひのき造りの山中温泉こおろぎ橋



えちぜん鉄道・三国港駅のスナップ



東尋坊の荒流と岩肌をバックに撮影

### ■大須賀常良先生・没後20年墓参り会でのお願い

大須賀先生のお墓参りが、2016 年 7 月 17 日に富士霊園にて、60 数名の参加者により行われた。そこで船越正生君、渡邊政年君等と 20 数年ぶりに会って旧交を温めた。その懇親会の席で、S53～S54 卒を中心に「いつもの仲間の同窓会：S51～S54 年卒」と題して、2 回目の同窓会を 12 年ぶりに開催するので、S53 卒の近藤弘文君や酒井を誘ってもらったのが発端である。

もちろん、その場で快諾の返事をしたのであるが、その後、色々なことが起こるとは思ってもよらなかった。

### ■同窓会の前後ともにハブニング続出

船越正生君が幹事として、旅程計画を早めに作製し、同窓会メンバーに送付した。平成 28 年 11 月 27 日(日)～29 日(火)、石川県山中温泉・河鹿荘ロイヤルホテルに宿泊し、1泊2日と2泊3日のコースに分けて参加者を募った。S51 年卒～S54 年卒の 11 名が、北は北海道、南は九州から集まった。参加者と卒年は以下の通りである。

S51 卒：近藤弘文・酒井孝博、S53 卒：船越正生・熊坂周悟・川股早苗・久米基巳・河野嘉明・小原直人・亀倉治・河西利紀、S54 卒：渡邊政年

酒井も 1泊2日コースに申込み済であったが、参加前日の 26 日に長男が急病になり、急遽 28 日に医師の説明を受けることに。そこで 27 日に 1泊して、翌日の朝には帰京するという慌ただしい日程に突入。

聞けば、近藤君の母上もご入院中とのこと、我々も年を重ねると色々な事態に遭遇することを実感する。

そして、同窓会旅行が無事に終わり、「如学会 NEWS」記事は今回幹事の船越正生君にお願いしてあったが、文章 350 字と写真を付けて、早々に船越君が白旗を揚げたのであった。急遽、酒井が書き継ぐことになった次第であるが、2 日目で降は船越君の記事を元に、酒井が書き継いでいることをご容赦願いたい。

### ■石川県と福井県を行き来する同窓会旅程

#### 1 日目：27 日(日)

三々五々、各自午前中に移動を開始し、夕刻 16:00 頃に宿泊先：山中温泉「河鹿荘ロイヤルホテル」に到着予定であった。そのため同期の近藤君と加賀温泉駅にお昼の 12 時過ぎに到着。駅近くの「加賀美術館」を見学し、その後、「深田久弥展示館」を訪れる。深田久弥氏は「日本 100 名山」新潮社刊の著者であり、登山家の文章と写真に望外の感激あり。

その後、ホテルで参加者全員の諸君に合流。卒業後 30 数年ぶりに会う人もいて、懐かしいと同時に、思えば遠くへ来たことを知る。夕食まで時間があつたので、近藤君と付近を散策。総ひのき造りの橋で、四季を通じて、山中温泉の代表的な景勝地であり、訪れる人が多い「こおろぎ橋」の風情に感心する。

ホテルに戻り、待望の夕食を兼ねた懇親会で旧交を温める。その後、二次会のホテル併設のカラオケ会場へと突入し、声の大きな熊坂周悟君のリードにより、実年齢を忘れ、学生気分が盛り上がったのであった。

#### 2 日目：28 日(月)

小原君・亀倉君と酒井の 3 名は、早朝から帰路につくことになったが、残りの 8 名でタクシーにて石川県と隣接する福井県観光を開始する。「曹洞宗大本山永平寺」を訪れ、しばし瞑想。その後、東尋坊にて日本海の荒波に対峙する岩壁の岩肌の荒々しさに圧倒される。

三国港での昼食は、予定していた越前ガニがあまりに高価だったので、泣く泣く海鮮丼で我慢することになった。

その後、えちぜん鉄道で再度、福井県へ入り、福井駅で 4 名が帰路につき、残り 4 名は山中温泉にもどり、2 回目の同窓会・宴会となった。

#### 3 日目：29 日(火)

朝食後、今回の同窓会での再会を約束して、楽しい記憶をたくさん残したまま、帰路についたのであった。

## 表彰 蔵田賞・如学会賞及び各賞

如学会では、卒業研究の顕彰として「蔵田賞」（卒業設計最優秀賞）と「如学会賞」（卒業論文最優秀賞）を授与しています。建築学科教室の協議の結果、2016年度「蔵田賞」は岡本啓吾君（手塚研究室）が、「如学会賞」は増田溪竜君（大橋研究室）が選出されました。該当学生にはそれぞれ、2017年3月19日の学位授与式にて如学会会長の山岡嘉彌から記念品が贈呈されました。

<span>■</span> 蔵田奨学基金賞 <p>岡本啓吾（手塚研究室）</p>		
<span>■</span> 如学会賞 <p>増田溪竜（大橋研究室）</p>		
<span>■</span> 卒業設計優秀賞 <p>2017年2月9日・16日に卒業設計講評会が行われました。9日は学内講評として専任の担当教員および設計演習担当の講師陣を審査員に、16日は学外講評として坂牛卓氏（東京理科大学教授）、吉村靖孝氏（明治大学教授）を審査員にお迎えし行われました。審査の結果、下記の通りに個人賞が表彰されました。また、建築学科教室から下記5名が卒業設計優秀賞として表彰されました。</p>		
<span>・</span> 卒業設計優秀賞 <p>片岡大貴（堀場研究室）</p> <p>永井 瞳（福島研究室）</p> <p>長谷川貴大（福島研究室）</p>	数藤朱梨（手塚研究室）	西 優貴（福島研究室）

・個人賞 ※当日会場にて表彰

岡本啓吾（手塚研究室）
羽鳥達也賞
栗田祥弘賞
松井 亮賞
小栗幹雄賞
永井 瞳（福島研究室）
坂牛 卓賞
浅石 優賞
伊藤 暁賞
片岡大貴（堀場研究室）
吉村靖孝賞
柏木穂波賞
西 優貴（福島研究室）
新居千秋賞
井手 勤賞
城所友莉奈（勝又研究室）
桑原 茂賞
清水龍太郎（手塚研究室）
石田有作賞
数藤朱梨（手塚研究室）
富川浩史賞

■卒業論文優秀賞

2017年2月14日に卒業論文発表会が行われ、建築学科教室から下記10名が卒業論文優秀賞として表彰されました。

秋山利奈（西村研究室）	伊橋春佳（小見研究室）
上岡なつみ（岩下研究室）	上田 真（大村研究室）
岡里保子（勝又研究室）	直井颯一郎（佐藤研究室）
原 光平（大村研究室）	堀田知宏（近藤研究室）
前野 諒（岩下研究室）	矢野瑠子（小林研究室）

■修士論文優秀賞

2017年2月15日に修士論文発表会が行われ、建築学科教室から下記4名が修士論文優秀賞として表彰されました。

大澤弘明（大橋研究室）	上村文也（小林研究室）
滝口祥平（西村研究室）	寺林大樹（勝又研究室）

■修士設計優秀賞

2017年2月16日に修士設計講評会が行われました。学外審査員に浅石優氏（東京都市大学都市生活学部・元教授）、新居千秋氏（東京都市大学客員教授）、坂牛卓氏（東京理科大学教授）、吉村靖孝氏（明治大学教授）をお迎えし、審査の結果、以下の通りに審査員から個人賞が表彰されました。また、建築学科教室から以下の3名が修士設計優秀賞として表彰されました。

・修士設計優秀賞および個人賞

伊藤健吾（堀場研究室）
坂牛 卓賞
吉村靖孝賞
田代日出郎（手塚研究室）
浅石 優賞
浪川稜馬（堀場研究室）
新居千秋賞

## 2016年度 卒業論文・修士論文

卒業論文	
天野研究室（計画系）	
赤松俊典	戸建て住宅空き家の施設転用の課題 <ul style="list-style-type: none"><li>横浜市「街の家族」を事例として－</li></ul>
石塚皓一朗	群馬県東吾妻町における人口減少の実態と対策
金子慧大	日野市多摩平の森団地再生に伴う周辺市街地整備の実態
川田理紗子	高齢者集合住宅居住者の居住歴からみる終の棲家像 <ul style="list-style-type: none"><li>「ゆいまーる多摩平の森」を事例として－</li></ul> 多摩田園都市における地域施設利用に関する問題
黒崎直也	佃島における路地の空間特性とその変容に関する研究
真田義隆	群馬県東吾妻町の主要施設の現状と課題
島袋 健	ひばりが丘団地地域におけるエリアマネジメントの実態
高垣克哉	イセザキモールのストリートファニチャーの実態と課題
花房 孝	立地適正化計画の策定実態と課題
宮村隆宏	－札幌市・花巻市・箕面市・熊本市を事例として－
米原薫樹	マイクロ・ライブラリーの活動実態に関する研究 <ul style="list-style-type: none"><li>小布施町・船橋市を事例として－</li></ul>

勝又研究室（計画系）	
安藤みのり	特別養護老人ホームにおける入居者と職員の関わりからみた食堂のあり方に関する考察 <ul style="list-style-type: none"><li>福岡県にある特別養老人ホームHを対象として－</li></ul>
薄 沙歩	認知症高齢者のサイン・掲示物の読み取りに関する実験的研究 <ul style="list-style-type: none"><li>認知症高齢者グループホームにおけるサイン及び掲示物の掲示計画の体系化に関する研究－</li></ul>
岡里保子	特別養護老人ホームのトイレの配置に関する考察 <ul style="list-style-type: none"><li>福岡県にある特別養老人ホームHを対象として－</li></ul>
城所友莉奈	移動観覧席を持つ外部と繋がる劇場・ホールの実態に関する研究
楠山 桃	都府県指定文化財建造物の公開の実態 <ul style="list-style-type: none"><li>関東地方と近畿地方を対象として－</li></ul>
小原あかり	移動観覧席の利用実態（長所・短所）に関する研究 <ul style="list-style-type: none"><li>全国の公立文化ホールを対象としたアンケート調査による－</li></ul>
齊藤直也	寺院本堂の地震被害と維持修繕の実態 <ul style="list-style-type: none"><li>2016年熊本地震と東日本大震災の比較を通して－</li></ul>
佐藤 圭	認知症高齢者グループホームにおける掲示物と介護予防効果に関する研究
玉井宏典	町屋の地震被害と維持修繕の実態 <ul style="list-style-type: none"><li>2016年熊本地震における新町・古町地区を対象として－</li></ul>
星野萌子	ガラスユニットカーテンウォールにおける形態・機能特性の現況と課題 <ul style="list-style-type: none"><li>東京23区にある中低層非住宅ビルを対象として－</li></ul>
吉川文菜	移動観覧席の利用実態（催し物）に関する研究 <ul style="list-style-type: none"><li>全国の公立文化ホールを対象としたアンケート調査による－</li></ul>

堀場研究室（計画系）	
市岡拓真	国立代々木競技場第二体育館の魅力について <ul style="list-style-type: none"><li>一世遺産登録へのパンフレッド作り－</li></ul>
川島俊哲	栃木県嘉右衛門町旧幣使街道沿いにおける連続性による町並み形成について

山口研究室（計画系）	
今枝幹義	東京都市大学図書館地下ラーニング commons の利用状況と評価に関する研究
田中瑞穂	ホームルーム教室を有する教科教室制中学校の利用状況と評価に関する研究
田野辺圭介	既往研究からみた小学校オープンスペースの成果と課題に関する研究
平野加奈	小学校におけるオープン型教室の利用状況と評価に関する研究 <ul style="list-style-type: none"><li>札幌市立T小学校の事例について－</li></ul>

岩下研究室（環境系）	
石川洋岳	ST区でのビル管理法対象小中学校における 空気環境に関する研究
上岡なつみ	長期実測による引き戸オープン型小学校における空気・温熱環境の快適性に関する研究
海野達也	東京都市部の小中学校における教室内の温熱環境と教室内事故に関する研究
梶ヶ谷恭輔	教室内空気環境とインフルエンザ欠席の関係性についての試験研究
関野宏樹	部活動時における学校校舎内の事故と気象条件に関する研究
千葉晃宏	学校環境衛生検査に基づく東京区部にあるST区における 小中学校教室の空気検査に関する研究
橋口功太郎	横浜市における学校内環境と児童生徒の健康安全性に関するアンケート調査
前野 諒	長期実測による引き戸オープン型小学校における空気・温熱環境の快適性に関する研究

宮本 遥	横浜市における学校内環境と児童生徒の健康安全性に関するアンケート調査
柳澤なつ美	埼玉県の小中学校における冷房普及率と学校事故との関係に関する研究
吉永純平	中学高等学校の事故データを用いた部活動時の熱中症リスクに関する研究

小林研究室（環境系）	
阿部 慎	高架下への光の照射による街の景観向上 <ul style="list-style-type: none"><li>都立大学駅周辺を対象として－</li></ul>
遠藤大介	地域住民と密着した関係を築く光の演出の提案 <ul style="list-style-type: none"><li>ハッピーロード尾山台を対象として－</li></ul>
勝俣 翔	蔦科東急ホテル周辺の景観特性を活かした夜間光環境の演出
川野遼怜奈	外壁格子に光を組み込んだ住宅外構照明の提案 <ul style="list-style-type: none"><li>相模原市鶴野森の新規分譲地への適用を目指して－</li></ul>
杉田奈美	自動車社会から歩行者社会への転換を図る地方小都市における屋外照明の提案 <ul style="list-style-type: none"><li>新潟県見附市を対象として－</li></ul>
高橋雄哉	静岡県東伊豆町を対象とした地域景観と避難誘導を両立させる夜間照明の提案
長井梨乃	山形県金山町をモデルとした公的照明を私有地に設置する提案と実験
村山晃規	宮城県気仙沼市における高台避難誘導と空間認識を向上させる光環境整備の提案
矢野瑠子	山形県金山町における住民主体の夜間景観づくりへの移行に関する研究

近藤研究室（環境系）	
松岡修平	建築外皮が暖房エクセルギー消費に及ぼす影響に関する分析研究
飯田恵美	夏期に開催されるマラソンコース周辺における地下鉄換気口からの冷気流による温熱環境改善効果
梅田倅太郎	紫外線照射による厨房排気系統に付着した油膜の分解・除去効果
實方真行	高温発熱機器から発生する放射熱量の測定方法に関する研究
鶴田尚希	自然換気時の屋内駐車場における必要開口面積に関する CFD 解析
野本悠介	室内表面の低放射率化による室内温熱環境の改善効果に関するCFD 解析
堀田知宏	夏期に開催されるマラソンコースの温熱環境改善方法の検討
森田直樹	夏期に開催されるマラソンコース周辺の歩道における温熱環境改善方法の検討

大村研究室（構造系）	
上田 真	JIS19形天井構成部材における力学的特性に関する実験研究
岡田亮佑	高軸力作用下での CPRC 杭のせん断強度
小川 諄	既製鋼管コンクリート杭と場所打ち鋼管コンクリート杭の曲げ性能評価
小林正純	レーザー距離計による建物外表面の変形測定
千濱彬比古	軸力比を考慮した高軸力作用下における既製杭のせん断強度と変形性能
出口雅敏	PRC・PHC 杭の終局時変形性能に関する実験研究
中村智玲	既製鋼管コンクリート杭の終局時変形性能に関する実験研究
原 光平	モジュール連結浮体の波浪応答シミュレーション
姫野優太	軍艦島建築群の振動計測と振動解析の比較
深澤翔太	ケーワンドームシステム天井構成部材における力学的特性に関する実験研究
星野太良	685MPa 級の高強度せん断補強筋を用いた RC 梁の損傷評価

西村研究室（構造系）	
西原栄一	離島のマルチハザードのリスク解析
寺岡正洋	避難・誘導・救援活動のための建物の安定化に関する研究
秋山利奈	新型積層ゴム支承を用いた低層 RC 建物の構造設計
江里口知輝	八丈島近海における波動スペクトルの観測とエネルギー密度の考察
大西咲絵	動吸振器による振動発電装置の振動台実験
笠原良仁	大型動吸振器による中低層建物の耐震性能向上に関する研究
佐藤将駿	動吸振器による振動発電装置の振動台実験
辻司夏海	八丈島近海における波動スペクトルの観測とエネルギー密度の考察
野口陸風	大型動吸振器による中低層建物の耐震性能向上に関する研究
広瀬公則	常時微動計測による建物の固有振動数と減衰の推定
眞船龍二	正方形断面鋼材の非弾性座屈荷重に関する実験
宮島慎治	高減衰制震構造を実現する構造計画法
宗形武弥	高減衰制震構造を実現する構造計画法

大橋研究室（材工系）	
井上雅貴	木造住宅の微動分析－測定値の分析から理論値の考察－
岩竹涼実	N 値計算の精度に関する研究 <ul style="list-style-type: none"><li>静的実験と N 値計算の比較－</li></ul>
岡本篤尚	木造建築構造基準変遷史

北野詩織	伝統的木造住宅における接合部耐力の検証 <ul style="list-style-type: none"><li>小根ほぞ差し鼻栓打ちT字仕口の理論値の作成－</li></ul>
相馬俊介	木造軸組構法住宅の耐震診断法に関する研究 <ul style="list-style-type: none"><li>敷地の地震動を考慮した耐震評点の見直し－</li></ul>
田中 守	CLT パネルのボルト引き抜き試験に関する研究
林 広晃	伝統的木造住宅の水平耐力の推定方法に関する研究 <ul style="list-style-type: none"><li>推定方針と土壁の基準耐力の設定－</li></ul>
増田溪竜	木材のめり込み挙動に関する実験的研究 <ul style="list-style-type: none"><li>三角形めり込み その2－</li></ul>
和田凌介	丸太組構法分析－ログ壁の挙動とメカニズムに関する研究

小見研究室（材工系）	
安東治彦	居住者参加型ワークショップによるサ高住の外構改善とその評価
五十嵐雄太	SH－13の3Dモデルによる構法の再現
石川拓也	木造板倉構法による応急仮設住宅の転用に関する研究
伊橋春佳	SH－67の3Dモデル化による構法の再現
田辺裕也	サービス付き高齢者向け住宅における屋外共用部分の改善手法に関する研究
徳永悠夏	自立積層型システム家具の開発研究 <ul style="list-style-type: none"><li>「複数の機能の組み合わせ家具」による室空間の分節手法－</li></ul>
矢原康平	震災後の仮設住宅における居住実態と居住者の意識に関する調査研究
山下陽平	震災後の仮設住宅における居住実態と居住者の意識に関する調査研究
吉田彩子	自立積層型システム家具の開発研究 <ul style="list-style-type: none"><li>「複数の機能の組み合わせ家具」による室空間の分節手法－</li></ul>

佐藤研究室（材工系）	
青木元哉	傾斜フロー試験器による高流動コンクリートの流動性評価に関する基礎的実験
浅見侑弥	コンクリートの中性化進行に及ぼす使用材料および養生条件の影響評価に関する解析
小河原悠司	コンクリートのポンプ圧送性に及ぼすフレッシュコンクリートのコロロジ一定数の影響に関する実験
久保堅太郎	各種セメントを使用した高強度コンクリートの調合強度式に関する研究
佐藤佑耶	高炉セメント B 種と普通ポルトランドセメントを混合使用するコンクリートの耐久性評価に関する実験的研究
種田雄馬	高温履歴を受ける超高強度コンクリートの水和反応過程に関する基礎的研究
直井颯一郎	高炉セメント B 種と普通ポルトランドセメントを混合使用するコンクリートの強度発現に関する実験的研究
三堀紗栄	コンクリートの圧縮クリープの定式化に関する研究
宮本真梨華	各種セメントを使用した高強度コンクリートの調合強度式に関する研究
望月 崇	海岸付近に建つ鉄筋コンクリート造建築物への塩化物イオン浸透に関する解析的研究
横田 栞	コンクリート中の塩化物イオンの拡散係数に及ぼす水酸化カルシウムの溶出の影響に関する実験的研究

修士論文	
天野研究室（計画系）	
袴田怜	戦後の公的集合住宅団地におけるコミュニティ形成手法の変遷
勝又研究室（計画系）	
堺皓亮	劇場・ホールの移動観覧席の諸元に関する研究 <ul style="list-style-type: none"><li>移動観覧席が導入されている公立文化ホールを対象として－</li></ul>
千葉絵里子	劇場・ホールの移動観覧席の利用実態と活用に関する研究 <ul style="list-style-type: none"><li>移動観覧席が導入されている公立文化ホールを対象として－</li></ul>
寺林大樹	特別養護老人ホームの移転改築に伴う建築空間と生活の変化に関する比較考察－福岡県にある特別養護老人ホームHを対象として－

岩下研究室（環境系）	
井口幸汰	オープン型小学校における空気・温熱環境の快適性に関する研究
中島 均	学校における空気・温熱環境が児童・生徒の健康性に及ぼす影響に関する研究

小林研究室（環境系）	
上村文也	官民協働による公有地と私有地一体的光環境の実践研究

西村研究室（構造系）	
滝口祥平	新型積層ゴム支承を用いた大型 TMD による中低層建物の耐震性能向上に関する解析研究

大橋研究室（材工系）	
大澤弘明	面材耐力壁のせん断耐力推定に関する解析的研究

卒業設計 学内講評会 2017年2月9日 学外講評会 2017年2月16日

勝又研究室 (計画系)

- 薄沙歩 賑わいのまんなか ①
- 城所友莉奈 伝える空港・見せる収蔵庫・調布飛行場の改修と絵画の保存- ②

小林研究室 (環境系)

- 長井梨乃 山形県金山町における地場産業及び地域コミュニティ活性化を目的とした公園内施設 ③

手塚研究室 (計画系)

- 岡本啓吾 川崎幸市場 ④
- 加藤 洲 消える駅 ⑤
- 北村友譜 僕らの児童館 ⑥
- 熊谷新太郎 大船渡の大きな船 ⑦
- 坂本 峻 立体住車場 ⑧
- 佐藤博紀 都市のオアシス ⑨
- 清水龍太郎 見えない小学校 ⑩
- 数藤朱梨 窓の残る町 ⑪
- 目黒周作 東海原発廃炉計画 ⑫

福島研究室 (計画系)

- 石井奨人 都市の象形 ⑬
- 石河莉夏子 ライン状の中心-港北NTにおける中心地の再提案- ⑭
- 小川陵祐 Activity City SHIBUYA ⑮
- 鈴木尚道 銀座九層物語 ⑯
- 永井 瞳 積層する和風 ⑰
- 長瀬ゆい 紡ぐ一糸から使い手まで- ⑱
- 西 優貴 屋台橋 ⑲
- 長谷川貴大 建築空間抽出及び再構築 ⑳
- 山崎雄大 堤防の内包 ㉑
- 山田一平 めぐる境界駅 ㉒

堀場研究室 (計画系)

- 片岡大貴 変化する空間 和と差 ㉓
- 市岡拓真 渋谷スポーツパーク ㉔
- 井上大裕 かけあがって、よじのぼって ㉕
- 尾花さき 部屋が連続するアトリエ ㉖
- 川島俊哲 ワイナリー ㉗
- 佐藤勇輔 tama footbridge ㉘
- 多田裕一 渋谷溪谷ホテル ㉙
- 福田 啓 Float Hill ㉚

修士設計 講評会 2017年2月16日

大橋研究室 (材工系)

- 川口将広 国産木材のサプライチェーンと変遷~製材所の現状と提案~ ㉛

手塚研究室 (計画系)

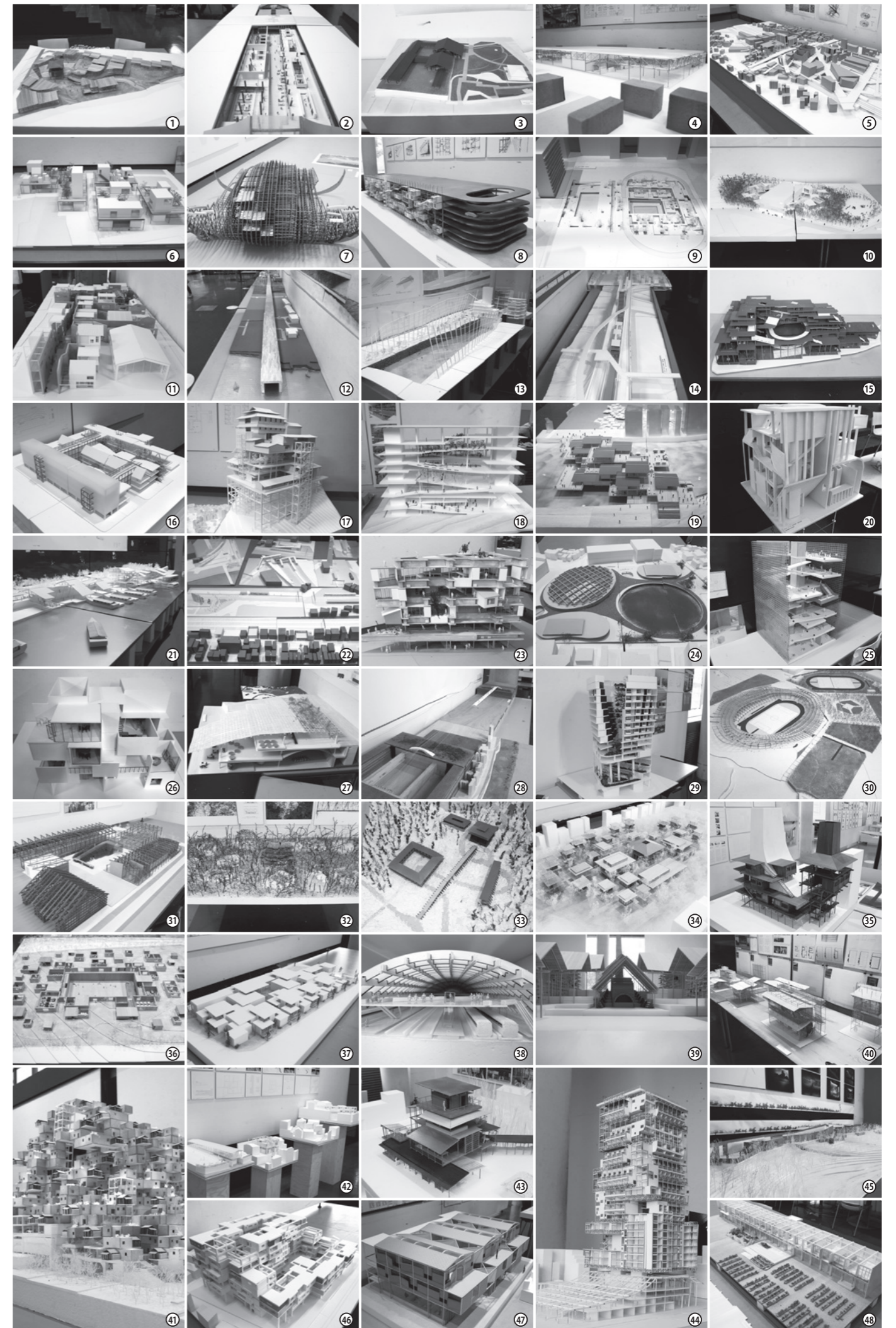
- 井上誠博 ガーナの学び舎-カカオの木の間伐材を用いた構法の研究- ㉜
- 大井雄太 バンコクスラムの光と闇 ㉝
- 川名恵祐 -実施調査に基づいた公有地的な領域の提案- ㉞
- これからの精神療養施設の理想的な在り方に関する研究 ㉟
- 社会的入院患者が地域で暮らしていくための中間福祉施設提案- ㊱
- 田代日出郎 生活困窮者のための社会への接続契機的设计 ㊲
- 寿町のホームレスから考える公私空間のあり方について- ㊳
- 戸川真緒 モンテッソーリ教育を採用した小学校計画 ㊴
- 鳥居希衣 高齢者施設で人が滞在する中間領域の研究 ㊵
- 野澤 碧 建築と速度-都市における移動空間のあり方- ㊶
- 呂 培源 地域に根ざした常滑伝統窯業の歴史と窯の再生 ㊷

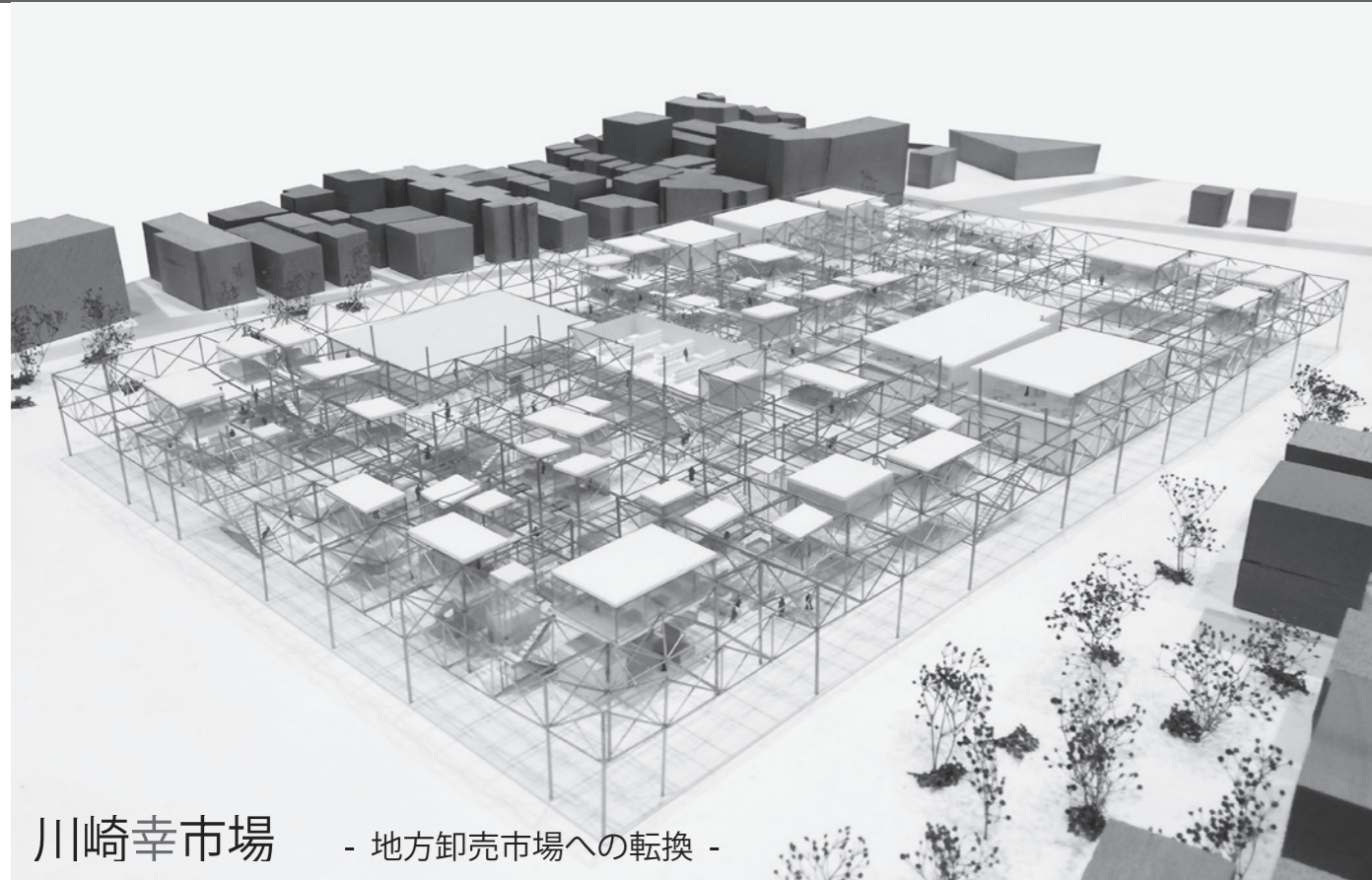
福島研究室 (計画系)

- 福井啄人 東京サクラダファミリア計画 (仮) ㊸

堀場研究室 (計画系)

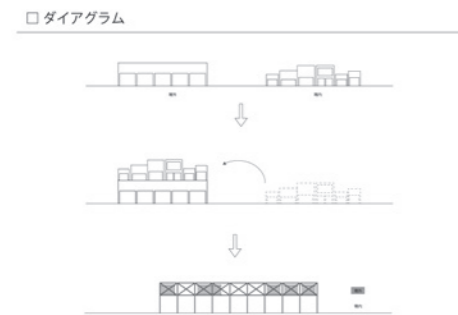
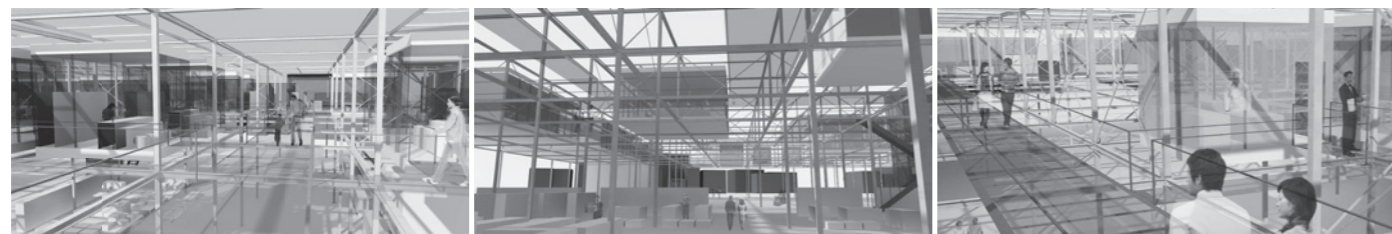
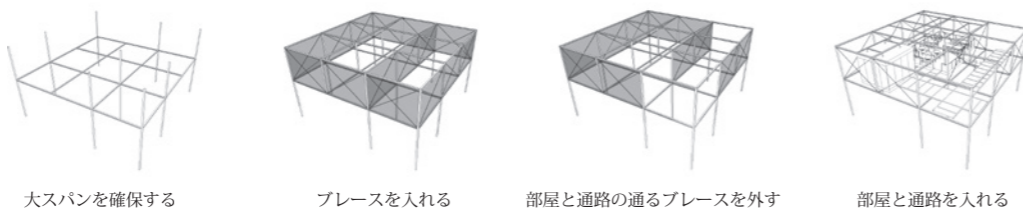
- 畔柳友哉 隅田川再開設計画-都市の水に着目して- ㊹
- 伊藤健吾 横浜市西区西戸部地区における斜面市街地の研究 ㊺
- 片嶋一裕 軒下空間から広がる新しいワークスペースの研究 ㊻
- 浪川稜馬 自然通風を活かした都市型居住空間の研究 ㊼
- 睡竹居の分析と応用- ㊽
- 長谷秀人 一等馬見所保存に伴う根岸競馬場跡地計画 ㊾
- 平山大悟 木造密集市街地における再開発の再定義 ㊿
- 福土貴仁 山谷地区における新しい簡易宿泊の提案 ㉀
- 本田拓海 廃校の活用による地域活性の計画 ㉁



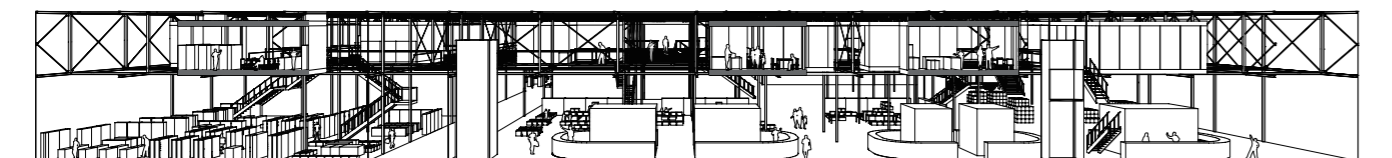


## 川崎幸市場 - 地方卸売市場への転換 -

流通の構造や内容が産地直送や加工食品の普及によって変わり、中央卸売市場から地方卸売市場へ転換する市場がある。地方卸売市場に転換した市場は規制が緩和され、より一般の人に開かれた場所を提案できる可能性を持っている。この計画は、川崎にある地方卸売市場を地域に根ざした新たな市場をつくる。



築地などでは場外の商店街は場内の横に位置しているが、場内の上に場外商店を配置することで、市場全体の賑わいを創出する



## 木材のめり込み挙動に関する実験的研究 - 三角形めり込み その2 -

### 1. 研究目的と背景

木造建築物の耐震性能は接合部に依存していることが多いが、接合部の特性は木材のめり込みによって決まることが多い。めり込みとは木材の繊維と直角方向の部分圧縮の事である。しかし、既往の研究では、接合部のめり込みに関する研究は、十分とは言えない。本研究は、図1-1に示すようにラーメン接合部などの木材の回転によるめり込み性能（三角形めり込み）を分析したものである。昨年度はヒノキを実験したが、今年度はベイマツとスギを行う。また、図1-2に示すように三角形めり込みに用いた試験体から試験片を3体取り出し、全面圧縮試験を行うことで、材料のめり込み特性を把握する。それらのデータから、木材のめり込みに関する設計式を作成することを目的としている。

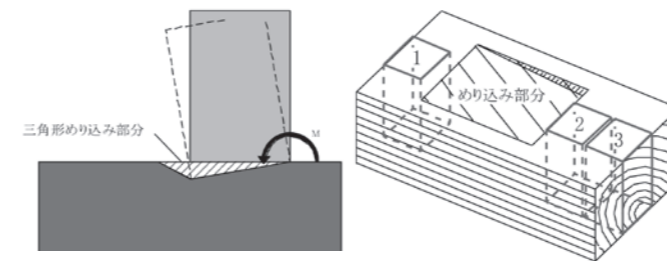


図1-1 三角形めり込みモデル 図1-2 全面圧縮試験体の抜き取り

### 2. 実験概要（加力方法・計測方法）

#### 2-1 三角形めり込み

図2.1に加力装置を示す。加力は鉛直下向きに単調加力とした。加力速度はおよ0.01mm/sec.とし、1/15rad.の角度もしくは規定の荷重に達したときに加力を終了した。これらよりモーメントと回転角に関する特性値を取得した。計測方法は、加圧材の四隅に変位計を設置し、鉛直変位を計測した。そして、加力方向側の変位のどちらかの値が1mm変形する度に計測及び写真撮影を行った。

#### 2-2 全面圧縮

全面圧縮実験における加力装置は、写真2.2、写真2.3に示す万能試験機オートグラフ(20kN)である。加力は鉛直下向きに単調圧縮とした。加力速度は、1.0mm/minとし、最大荷重が20kNもしくは、最大変位が11mmに達した時点で加力を終了とする。これにより、荷重と変位に関する特性値を取得する。計測方法は、万能試験機オートグラフにより変位を測定した。そして変位の特徴が主に見られる初期状態から2.0mmの間は、0.5mm間隔で計測及び写真撮影を行い、2.0mm以降は1.0mm間隔で測定した。



図2.1 加力用装置 写真2.2 装置前景 写真2.3 圧縮変形

### 3. 今後の展望

本年度の研究では、スギ/ベイマツの三角形めり込み試験を各42体と、スギ・ヒノキ・ベイマツの全面圧縮試験を各126体行った。これらの試験データをもとに今後どのように分析を進めていくのかを以下に示す。

#### 3.1 結果の分析

今回のスギとベイマツの試験結果をもとに、分析が必要となる。各樹種の加圧成(100mm,150mm,200mm)の回転による設計式を作成するにあたって、加圧幅と第一勾配、第二勾配、仮想降伏モーメントの関係式を作る。そしてこの特性値を求める設計式を作成する。

### 3.2 実験値と理論値の比較

三角形めり込みのめり込みは、めり込み深さ方向にバイリニア型の応力状態になると仮定して解析を行う。全面圧縮データの平均を使用し、グラフ1本ごとの仮想降伏点を決め、第一勾配及び第二勾配を算出する。ここではsZ-50-100 1-Ave.を例として図3.1のように傾きを求めたものを示す。次に、上の第一、第二勾配、仮想降伏点を用いて図3.2のような三角形めり込み時に生じるモーメントの合計値を求め、耐力を算出する。以下の3つのケースを理論値として求める。

- 1) 三角形めり込み部分のみ
- 2) 三角形めり込み部分+引き込み部分
- 3) 三角形めり込み部分+引き込み部分+側面引き込み部分

以上より全ての実験値と理論値を比較及び考察をする。この1例を図3.3に示す。降伏までは、かなり追跡できている。ただし、第二勾配から差が開いている。引き込みの考慮が不足していると考えられる。

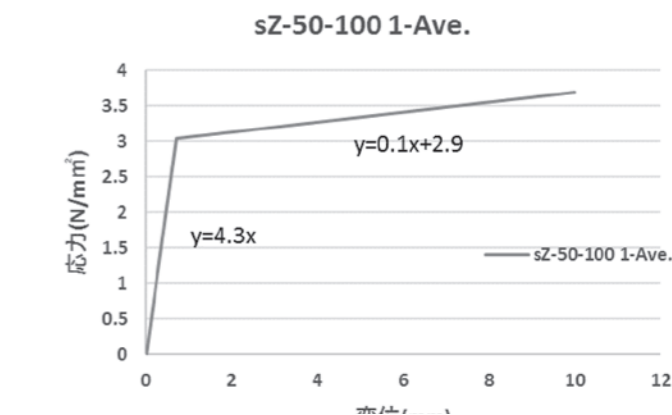


図3.1 仮想降伏点の傾き

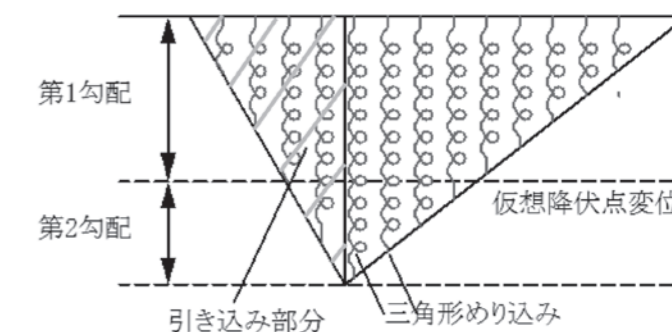


図3.2 三角形めり込みと引き込み部分

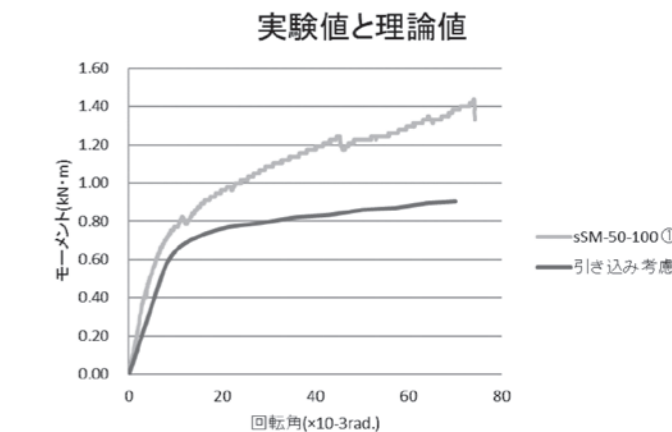


図3.3 実験値と理論値

如学会の今年度前半の主な行事は下記の通りです。多くの会員の皆様のご参加をお待ちしております。

## 東京都市大学「建築 100 人展 2017 大学展・巡回展」

## 編集後記

2017.11.04 [土] - 11.05 [日]

**大学展** 10:00-18:00 入場無料

会場：建築学科 1 階 グランドギャラリー

2017.12. [予定]

**巡回展**

会場：未定



建築 100 人展 2017 | 大学展 2017.11.04 - 11.05 | 巡回展  
卒業生 100 人の活動を集めました。

同期で気の合った仲間毎年新年会や忘年会を開いている話は良く聞きます。  
本号で紹介した同窓会 (P20, P21) は同期前後 2 期の方で計画されました。一つは大須賀常良先生の没後 20 年の墓参 (P12) をきっかけに開かれました。同窓会を開催した方は、多くの参加者が如学会の活動を知らないのに驚かされたと報告しています。建築 100 人展、進路支援プログラム、特別講義、作品見学会、技術見学会等の事業、年 2 回発行のこの如学会 NEWS を知らない方が存在するのです。これらの同窓会を通じて如学会の活動を周知する契機としたいものです。6 月 3 日 (土) 渋谷エクセルホテル東急で如学会 2017 年度の定期総会を開催します。講演者も従来と趣きを変えた方をお願いしました。ご期待下さい。同窓会を開きたいけど準備に時間が取れない方は、是非この定期総会を活用して、友人、先輩、後輩にお声掛け下さい。お待ちしております。  
11 月 11 日に笹原貞彦先生を偲ぶ「笹原会」13 回忌も開催されます。ご参集下さい。  
丹羽謙治

## 定期総会・講演会・懇親会

2017.06.03 [土] 15:30-20:00

## 「笹原会」13 回忌のお知らせ

15:30	● 定期総会 ● 渋谷エクセルホテル東急
16:30	● 休憩
16:45	● 講演会 ● 講演：橋本久義氏 政策研究大学院大学 名誉教授
17:45	● 休憩
18:00	● 懇親会
20:00	

集合場所：多磨霊園笹原家墓前 (26 区 1 種 31 側 1 番)  
笹原先生がご逝去されてから、早いもので今年で 13 回忌を迎えます。つきましては先生を偲んで、心ある方々による墓参の「笹原会」を執り行います。皆様お誘い合わせのうえ、ご参加下さいませようご案内申し上げます。  
笹原会研究室有志の会  
連絡先：青柳浩男 (S40 卒)  
090-8562-8260

※詳細はメールマガジンで追ってお知らせします。HP もご覧下さい。

各事業の申し込み  
問い合わせ先  
総務委員長  
丹羽謙治  
TEL:03-5790-8082  
FAX:03-5790-0654  
E-mail  
jogakkai.info@jogakkai.jp

## 橋本久義氏 講演会

## 会費・支援費納入のお願い

2017.06.03 [土] 16:45-17:45

「モノづくりとグローバル戦略」(仮題)

橋本久義氏 政策研究大学院大学 名誉教授

1969 年東京大学工学部精密機械工学科卒業後、通産省に入省。1978 年西ドイツデュッセルドルフに JETRO 調査員として 3 年間駐在。1994 年埼玉大学教授 (政策科学研究科)。1997 年政策研究大学院大学教授に就任。2011 年政策研究大学院大学名誉教授、客員教授に就任。



是非とも旧友、先輩、後輩にご連絡いただき、会費納入の促進にご協力いただけるようにお願いします。そして、積極的に如学会活動にご参加下さい。仕事にキャリアにも多くのメリットがあります。

会費：3,000 円 (1 年分) / 10,000 円 (4 年分・割引料金)  
支援費：5,000 円 / 一口

納入頂ける方は必ず「内訳」をご記入の上、振込頂くようお願い致します。如学会 NEWS に同封の専用の振込用紙を用いない場合は下記口座をご利用ください。

郵便局 払込取扱票 No. 00160-0-174206 如学会

郵便振込以外の方法を紹介 (詳しくは如学会 HP)

## 赤レンガ卒業設計展 2017

2017.3.16 [木] - 20 [月] 10:00-19:00

- 会場：横浜レンガ倉庫 1 号館 1 階 スポット・2 階 スペース・3 階 ホール
- 講評審査会
- ・ 日時：2017.3.20 [月・祝] 13:15-
- ・ 会場：横浜赤レンガ倉庫 1 号館ホール
- ・ 審査委員長：小川晋一、審査員：猪熊純、藤村龍至、連勇太郎、司会進行：門脇耕三
- 参加大学  
東京都市大学、神奈川大学、共立女子大学、工学院大学、首都大学東京、昭和女子大学、東海大学、東京工業大学、東京電機大学、東京理科大学 (工、理工)、日本大学 (理工、生産、海洋、街づくり)、日本女子大学、法政大学、前橋工科大学、武蔵野大学、明治大学、横浜国立大学
- 問い合わせ  
赤レンガ卒業設計展 2017 実行委員長  
東京都市大学工学部建築学科 3 年 吉川瑞樹  
akarengasotsuten2017@gmail.com

## 新ホームページのご案内

10 月 1 日より如学会ホームページをリニューアル致しました。

- URL: [jogakkai.jp](http://jogakkai.jp)
  - リニューアルポイント
1. ホーム画面・メニューを一新しました。
  2. 「お知らせ」、「如学会メールマガジン」を過去分も含め、ホームページから見る事ができます。
  3. 「会員サービス」を新設し、登録住所及び会費・支援費の納入状況の確認を自分でできます。

発行人	山岡 嘉彌
情報委員長・編集長	丹羽 謙治
編集顧問	松成 和夫
編集委員	酒井 孝博 勝又 英明 山口 裕照 鈴木 浩
エディトリアルデザイン	山岡 嘉彌
制作	鈴木 浩 奥山 美緒
制作・印刷	株式会社 はやと企画
発行	東京都市大学建築学科如学会 東京都世田谷区玉堤 1-28-1 〒158-8557
発行日	2017 年 3 月 19 日